

ノートルダム清心女子大学
地域連携・SDGs 推進センター実績報告書

[2021（令和3）年度]

ノートルダム清心女子大学
地域連携・SDGs推進センター

目 次

センター長ご挨拶	1
I. 地域連携・SDGs 推進センターの概要・ポリシー	2
1. センターの概要	2
2. 2つのポリシーの関係性	5
3. 国連大学 SDG 大学連携プラットフォームへの参加：経緯と成果	6
II. 地域連携活動の一覧と報告	9
1. 地域連携活動実績一覧	9
(1) 連携協定一覧	9
(2) 連携協定に基づく活動実績一覧（締結順）.....	9
(3) その他の活動実績	13
2. 地域連携活動報告（一部）	14
(1) 各連携協定に基づく活動（締結順）	14
【NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山との包括連携協定に基づく活動】	14
2021 年度「国際塾」の報告	14
【JA 岡山との包括連携協定に基づく活動】	16
「JA 岡山 未来の米食育プロジェクト：商品化と販売に至るまで」活動報告	16
【岡山市との包括連携協定に基づく活動：センター直轄】	20
ももちやり MAP 制作プロジェクト	20
岡山市市民活動支援アドバイザーへの本学学生の就任	23
市研修会講演「ナッジ入門：行政への導入と課題」（センター直轄）	25
【岡山市との包括連携協定に基づく活動：学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト】	26
「ツボジョーワールド探検隊」：坪田譲治文学から SDGs への試み	26
「清心・奉還町 TFT チーム」活動報告	29
「岡山どこ行く晴れマチ navi」（略して「晴れ navi」）活動報告	31
(2) その他の連携活動に関する報告	33
社会福祉課程における地域連携活動について	33
R3 年度「未来につなげる！晴れの国おかやま のこさずたべよう事業」報告	36
岡山県生涯学習センター「若者発！まちプロ」（センター直轄）	38

Ⅲ. SDGs 推進活動の一覧と報告	40
1. SDGs 推進活動実績一覧	40
(1) 「SDGs 理解」推進に関する活動実績一覧	40
(2) SDGs の達成に関する活動実績一覧	41
2. SDGs 推進活動報告（一部）	43
(1) 国連大学グローバルセミナー	43
(2) 2021 年模擬国連活動報告	45
(3) 岡山市主催中小企業向け SDGs 講演	49
3. 本学の SDGs 推進活動に関する資料	50
(1) 東洋経済ムック本 SDGs 特集	50
(2) 国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム 2021 年度成果物	51
(3) 本学の SDGs 推進活動に関する新聞記事・雑誌	52
(4) ナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィス・ブログ SDGs 記事（訳）	53

センター長ご挨拶

地域連携・SDGs推進センター長 濱西 栄司

ノートルダム清心女子大学の建学の精神に基づき、地域への貢献、および、「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成を推進することを目的として2019年4月1日より、地域連携・SDGs推進センターは始動いたしました。

前身の地域連携センター時代から、岡山市をはじめ、こくさいこどもフォーラム岡山(インターキッズ)、山陽新聞社、早島町、和気町、岡山市農業協同組合(JA岡山)と包括連携協定を結び、地域との連携協力に取り組んでまいりました。地域連携・SDGs推進センターが大切にしていることは、その地域連携活動の「質」をより高めること(連携を双方向的なものに)、そしてSDGs推進をグローバルに展開していくこと(岡山・瀬戸内から関西・関東、国際機関、世界へ)です。

近年の大きな変化は、2020年10月創設の「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」(UNU SDG-Universities Platform:SDG-UP)に本学が、29大学の一つに選ばれて参加したことです(詳細は後述)。それによって、本学は、国連大学および日本を代表する諸大学とSDGsで連携することが可能になり、グローバルセミナーへの学生推薦枠が得られ、また世界の先駆的大学の取り組みやランキング情報を直接得ることもできるようになりました。さらにSDGsカリキュラム分科会において国連大学と12大学が連携して授業を構築するという日本初の取り組みを進めることができ、実際にプロトタイプ授業の完成にまでいたっています。本学は、そのSDGs理解と実践とが認められ、3つの幹事大学の一つとなり、授業構築を(目標設定や授業配置、動画作成などで)けん引しましたが、それらの活動全体を地域連携・SDGs推進センターが中心となって担っております。

世界的にも困難を抱える状況下で、活動に制約があるのも事実ですが、さまざまな可能性を視野に入れ、持続可能な取り組みを模索しながら、活動を続けることを使命と考えております。

今後、地域との連携および持続可能な開発目標を達成するための活動は、ますます重要になってくると思われます。本学には当センターのほか、産学連携センター、生涯学習センターを配置しておりますが、各センターの強みを生かしながら協力体制をとり、ますます地域貢献・地域発展に寄与しうるべく活動を進展させていく所存でございます。本学ならではの地域連携とSDGs推進に取り組んでまいりますので、今後とも皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

I. 地域連携・SDGs 推進センターの概要・ポリシー

1. センターの概要

設立の趣旨

ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センターは、前身の地域連携センターを拡充し、総合的な地域貢献活動と「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs) の達成、及び関連学術研究・人材育成に取り組むことを目的としている。

活動のポリシー

- ・地域連携ポリシー:岡山・中四国地域の諸団体（地方自治体、産業界、メディア、公益社団・財団法人、NPO 法人等）との連携を引き続き発展させるとともに、京阪神・関東圏・海外の諸団体、国際機関、国際協力 NGO 等との連携も視野に入れる。
- ・SDGs 推進ポリシー: 本学の母体ナミュール・ノートルダム修道女会の長年にわたる国際連合や開発途上国での活動、SDGs 制定への尽力、及び世界中の系列大学・学校での SDGs 実践等をふまえた「SDGs 理解」と、女子大学である本学の特徴をふまえた SDGs の達成とを推進する。

組 織

名 称: ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センター

(NDSU Center for Regional Collaboration and SDGs Promotion: NRS)

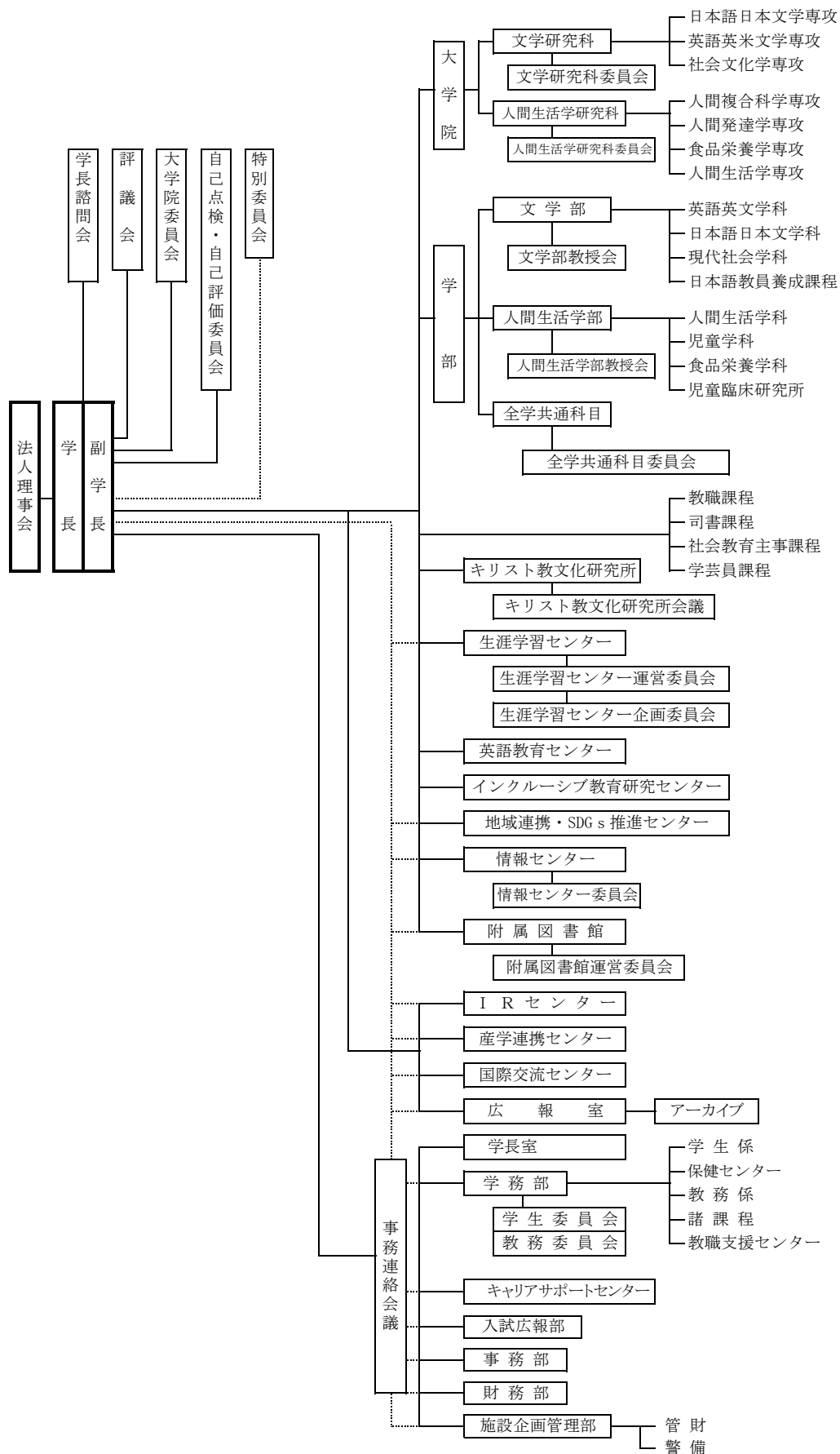
開 設 日: 2019 年 4 月 1 日 (旧地域連携センター 開設日: 2014 年 4 月 1 日)

スタッフ: 地域連携・SDGs 推進センター長	濱西 栄司
同上 主任	濱崎 絵梨
同上 所員	Sr. 高木 孝子
同上 所員	豊田 尚吾
同上 事務職員	藤原 久美子 渡邊 恭子

センター外観



ノートルダム清心女子大学運営組織（2021（令和3年）年5月1日現在）



ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センター規則

(設置と目的)

第1条 ノートルダム清心女子大学（以下、「本学」という。）の建学の精神に基づき、地域社会への貢献、及び「持続可能な開発目標」（SDGs）の達成を推進することを目的として、地域連携・SDGs 推進センター（以下「センター」という。）を置く。

2 センターの英語名を NDSU Center for Regional Collaboration and SDGs Promotion とする。

(地域連携・SDGs 推進センター運営会議)

第2条 本学における地域連携及びSDGs 推進の方針を決定し、その具体的な内容を検討するため地域連携・SDGs 推進センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議については、別に定める。

(業務)

第3条 センターは、運営会議が決定する本学の地域連携・SDGs 推進の方針に従い、地方自治体、産業界、公益法人、NPO 法人、国際機関、国際協力 NGO 等、地域社会・国際社会で活動する諸団体と連携し、地域への貢献とSDGs の推進、学術研究、幅広い人材の育成を行う。

(組織)

第4条 センターの責任者として、地域連携・SDGs 推進センター長（以下、「センター長」という。）を置く。

2 センター長は、教員の中から学長が任命する。

3 センター長は、センターを代表し、これを統括する。

4 センターに主任を置く。主任は、センター長の命を受け、センターの業務を処理する。

6 センターに所員及び学外所員を置くことができる。

7 センターにワーキンググループを置くことができる。

(事務)

第5条 センターに事務職員を置く。事務職員は、センターの事務を処理する。

(経費)

第6条 センターに係る諸経費は本学の予算から支弁する。

(改正)

第7条 この規則の改廃は、運営会議及び評議会の議を経て学長が行う。

附 則

1. この要領は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

2. この規則の制定に伴い、従前の「ノートルダム清心女子大学地域連携センター規則（2014 年 4 月 1 日施行）」は、廃止する。

2. 2つのポリシーの関係性

地域連携・SDGs 推進センター長 濱西 栄司

本センターのポリシーは地域連携ポリシーと SDGs 推進ポリシーから成る。

まず「地域」連携という言葉には、地理的に近接する地域、local での連携というニュアンスはもちろん、日本の、世界の各地域、regional での連携というニュアンスも込められている。中心を岡山に置きつつも中四国や瀬戸内海、さらに関西や関東、また国際機関や海外との連携も射程に置いているのであり、センターの英語名を「regional」collaboration とするのもそのためである。連携においては、より多く、より多様にすること（量的発展）以上に、一つ一つをより双方向的にして、互いの発展により寄与するようなものにしていくこと（質的発展）を重視している。双方向的なものにするためには、こちら側にも目指すビジョン（こだわり）がなければならない。そのようなビジョンは、地域連携ポリシーよりも、本学の建学理念に基づくもう一つの軸である SDGs のポリシーによって規定されることになる。

次に本センターにおいて SDGs とは、国際連合で合意がなされた『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』のなかに位置づけられた SDGs を指している。そのアジェンダでは、2030 年までに世界をおおきく変えていくことの必要性・切迫性がうたえられ、一人一人の「人権」がすべての目標の土台として位置づけられている。本学設立母体のナミュール・ノートルダム修道女会（Sisters of Notre Dame de Namur）は、長年、開発途上国の支援に携わり、国際連合への諮問資格を持つ NGO として SDGs 制定にも関与してきた。その理念や活動、実績は本学の建学理念にも投影されており、本センターの基盤ともなっている。ポリシーにおいて母体修道女会の「SDGs 理解」の推進を掲げているのはそのためである。加えて県内唯一の女子大という特徴をふまえれば、SDG5（ジェンダー平等）の推進を核として、他の目標を関連付けていくという「SDGs の実践」の方向性が引き出されてくる。

そのようなポリシーを地域の現場で実践していく場合の枠組み（手法や戦略の幅や発想）には、地域連携ポリシーも関連してくることになる。このように、SDGs 推進ポリシーは、〈双方向的な地域連携を進展させる際に〉ビジョンを提供し、地域連携ポリシーは、〈SDGs 推進を現場で実践する際に〉枠組みを提供してくれるのである。

本報告書は、2021 年度の本センターの活動実績を記したものである。各教員や学生、各部署は、さまざまなかたちで地域連携や SDGs 推進の活動をおこなっているが（学科ブログ等を参照）、本センターが直接的にかかわっている活動事例の報告に限定している。

本報告書では前半を地域連携、後半を SDGs 推進の活動実績一覧としているが、両者はもともと関連している。それゆえ、区分はあくまでも便宜的なものとお考えいただきたい。なお、本報告書中に山陽新聞社の記事が転載されているが、これは同社との包括連携協定にもとづいて特別に許可されているものである。同社への謝意とともにここに付しておきたい。

3. 国連大学 SDG 大学連携プラットフォームへの参加：経緯と成果

地域連携・SDGs 推進センター長／現代社会学科 濱西 栄司

1. 参加に至る経緯（2020 年 8 月～10 月）

2020 年 8 月半ばに、国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム構想（10 月設立予定）について、筆者（当時、地域連携・SDGs 推進センター主任）に、国連大学より案内が届いた。検討を行い、並行して情報収集を行った。本プラットフォーム構想は、既存の SDGs ネットワークとは一線を画すものであり、本学が長年取り組むキリスト教的理念に基づく活動が十分正当に評価されうるものであったため、8 月 28 日のプラットフォーム設立記念のオンラインシンポジウム（文科省後援）に参加することとなった——全国の大学関係者 500 名以上参加。

そのなかで、「国連大学が動く以上、本当に意味のあることをする」こと、そのため各大学の理事・学長レベル（presidential level）の参加が要請されること、そして「20 大学」程度にセレクションを行うことなどが説明された。情報収集をさらに進めるなかで、プラットフォームが「ダイバーシティ」を重視すること、その観点から本学の、特にジェンダー平等の取り組み、具体的なアクションと実績が高く評価される可能性があるとわかってきたため、正式にエントリーをおこなう提案を行い、了承された。その際、学長直轄（学長・副学長および地域連携・SDGs 推進センター主任）で準備することも合意された。

9 月 9 日にエントリーを行った（100 を超える大学がエントリーしたという）。その後、10 月 15 日に、国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム事務局長によるヒアリング調査（オンライン）がなされ、その結果、本学は無事 29 の参加大学に選ばれることになった。その旨、大学 HP で発表がなされ、山陽新聞にも記事が掲載された。

2. 2020 年度の活動と成果（2020 年 10 月～2021 年 3 月）

10 月 30 日に第 1 回ワークショップがリアルとオンラインで開催された。最初にプラットフォームの趣旨説明と質疑があり、その後、29 参加大学による自己紹介時間があった。本学からは学長が出席した。第 2 回ワークショップ（11 月 11 日）は、英 Times Higher Education 社の「大学 SDGs ランキング」担当と直接、オンラインでつなぎ、ランキングについての報告、質疑、およびグループディスカッションが行われた。第 3 回（12 月 15 日）と第 4 回（1 月 27 日）には、各大学のとりくみの発表がなされた。本学は、第 3 回に筆者が資料を作成し、発表を行った。次いで第 5 回（2 月 18 日）は、Yale 大学の担当と直接、オンラインでつなぎ、取組内容について報告と質疑、およびグループディスカッションが行われた。

参加大学 29校（アルファベット順）

- | | |
|-----------|----------------|
| ・ 青山学院大学 | ・ ノートルダム清心女子大学 |
| ・ 千葉商科大学 | ・ 奈良教育大学 |
| ・ 愛媛大学 | ・ お茶の水女子大学 |
| ・ 広島大学 | ・ 大阪大学 |
| ・ 北海道大学 | ・ 大阪府立医科大学 |
| ・ 上智大学 | ・ 創価大学 |
| ・ 神奈川大学 | ・ 東海大学 |
| ・ 金沢大学 | ・ 東京大学 |
| ・ 関西学院大学 | ・ 東京外国語大学 |
| ・ 慶應義塾大学 | ・ 東京工業大学 |
| ・ 北九州市立大学 | ・ 東京都市大学 |
| ・ 国府大学 | ・ 東京理科大学 |
| ・ 国際基督教大学 | ・ 東洋大学 |
| ・ 九州産業大学 | ・ 筑波大学 |
| | ・ 経国大学 |

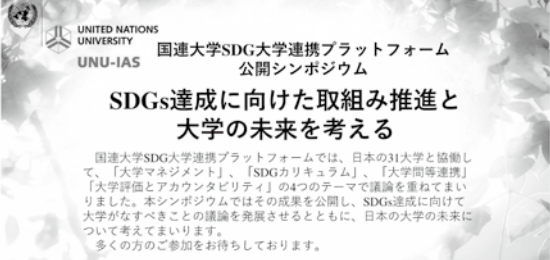
そして年度末3月24日に開催された第6回総括セッションでは、4つのセッションが置かれた。カリキュラムセッションでは、事務局からの依頼を受けて本学と東京理大、九州大学が報告を行った（筆者が登壇）。他の2つのセッションでは関学・阪大・広大、および東大・上智、北大・慶応が登壇した。山口しのぶプラットフォーム代表（国連大学サステナビリティ高等研究所長）は、セッションに登壇した各大学が今後、プラットフォームをけん引することについて期待を述べた。

3. 2021年度の活動と成果（2021年4月～2022年3月）

5月12日の第7回ワークショップ（全体会：大学評価）では、Impact Rankings 2021の解説（THE社担当Duncan Ross氏）があり、質疑とグループディスカッションがなされた。6月18日の第8回ワークショップ（全体会：大学評価）でも、大学経営への活用事例の報告があり、その後、質疑とグループディスカッションがなされた。

9月7日、11月10日、1月21日の第10・12・14回ワークショップ（全体会：マネジメント）では、海外の大学（アリゾナ州立大学、スラバヤ工科大学、オークランド大学）とオンラインで結んで取り組みに関する講演、質疑、とグループディスカッションがなされた。

全体会と並行して、7月28日に第9回ワークショップ（分科会）が開催され、本学はカリキュラム分科会と大学間連携分科会に参加した。カリキュラム分科会は、ICU毛利教授、関学志甫教授と筆者の3名が幹事となり、授業構築をけん引した。授業セグメントの募集を行い、授業の配置を筆者中心に行った。10月8日の第11回ワークショップ（分科会）、10月22日と12月7日のカリキュラム分科会授業担当者ミーティング、そして12月14日の第13回ワークショップ（分科会）において授業の詳細を詰めて、授業録画制作プロセスに移行した。本学はパートナーとなるお茶の水女子大学の担当と、



開催概要

▼日時
3/30 (水) 13:00-17:00

オンライン 参加費無料

▼視聴対象者
大学・教育関係者、大学経営者、大学マネジメント部門担当者、大学との連携に関心のある企業・自治体関係者、学生等

▼申込方法
下記短縮URLまたは二次元バーコードのフォームより事前登録をお願いいたします。
【申込締切：3月25日（金）】

シンポジウム参加者申込フォーム
<https://onl.la/3x0H6KH>

【主催】国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）／【後援】文部科学省（予定）
【お問い合わせ】国連大学SDG大学連携プラットフォーム事務局 sdgs-up@unu.edu

プログラム詳細

13:00- 冒頭挨拶
山口しのぶ SDG大学連携プラットフォーム・チェア、UNU-IAS所長
小林万里子 文部科学省大臣官房国際課長

13:10- ▶セッション1 SDGs推進における大学マネジメントの役割
-活動報告「大学マネジメント層がSDGs推進において目指すべきこと」
土屋大津（慶應義塾常任理事）
事例発表「大学SDGs推進における具体的な事例」司会：加藤宏（国際大学副学長）
ウィリアムズ・マーク（国際基督教大学副学長）、大塚耕司（大阪府立大学副学長）
森下哲朗（上智大学副学長）、横田篤（北海道大学理事・副学長）
藤原菜子（お茶の水女子大学学長補佐）、島谷本俊介（九州大学教授）
芝田敬之（沖縄科学技術大学院大学事務局長）

14:10- ▶セッション2 大学横断型SDGオンライン授業プロジェクト「国連SDGs入門」の開発
-活動報告 毛利勝彦（国際基督教大学教授）
-国連SDGs入門紹介 濱西栄司（ノートルダム清心女子大学准教授）
-パネルディスカッション 司会：志南啓（開成学院大学教授）、参加大学メンバー

15:10- ▶セッション3 大学発の連携「日本らしいSDGsのありかた」
-活動報告、事例発表、パネルディスカッション「日本らしいSDGsのありかた」
司会：吉田初浩（広島大学教授）
森田貴典（筑波大学教授）、川口英夫（東洋大学教授）、ママードウ・アイダ（金沢大学准教授）、九州産業大学（学生）、金沢大学（学生）

16:10- ▶セッション4 大学評価におけるTHEインパクトランキングの意義と課題
-基調講演：「THEインパクトランキングと日本の大学について～世界の大学との比較」
池生秀隆（上智大学IR推進室長）
-事例発表 池田潤（筑波大学副学長）、竹内裕美子（北海道大学URA）

国連大学SDG大学連携プラットフォーム

「SDGs推進に積極的な大学が連携し、取組みの共有、国際社会で活躍できる人材育成、国内外への発信を通じて、日本の大学のSDGsの取組み及びステークホルダーとの関係強化と国際社会でのプレゼンス向上を図ることで、日本及び世界の持続可能な発展に貢献する」ことを目的に2020年設立。
<https://ias.unu.edu/jp/sdgs-up>

【参加大学（31大学）】
愛媛大学、大阪大学、大塚医科大学、大塚公立大学、沖縄科学技術大学院大学、お茶の水女子大学、上智大学、神奈川大学、金沢大学、関西学院大学、九州大学、九州産業大学、慶應義塾大学、北九州市立大学、聖隷大学、国際基督教大学、創価大学、千葉商科大学、筑波大学、東海大学、東京大学、東京外国語大学、東京工業大学、東京都市大学、東京理科大学、東洋大学、奈良教育大学、ノートルダム清心女子大学、広島大学、北海道大学、筑波大学

12月20日などに打ち合わせを行った。2月24日にも授業担当者ミーティングが行われ、全体の調整と年度末セッションに向けてダイジェスト動画の作成を筆者中心に進めた。

その後、2022年3月30日の第15回ワークショップ（年度末全体会）において、カリキュラム分科会の幹事として登壇し、「国連SDGs入門」について発表をした。本学では2022年度にプロトタイプ版を実施予定である。

- ・年度末全体会（3月30日）での「国連SDGs入門」解説資料（筆者作成）

「国連SDGs入門」の紹介

プロトタイプ版

概要

これまで

これから

SDGカリキュラム分科会

第2回モデレーター 渡辺中司

（ポートランド大学・東京大学・国連大学・SDG推進センター）

国連SDGs入門

「行動の10年」のためのサステナビリティの学び

Introduction to the UN SDGs: Learning Sustainability for the Decade of Action

特長

- ・国連大学SDG大学連携プラットフォーム開発の一般教養科目
- ・SDGs実践に先駆的に取り組む全国の大学が協力して展開

授業の概要

- ・サステナビリティに関する広い知識を身につけるとともに、SDGsの社会的、経済的、環境的、ガバナンス的側面の有機的関連性を捉える視座や自主的かつ協働的に考える力を養う。
- ・SDGsの歴史的背景と日本の現状を理解したうえで、SDGsがもたらめる変化と行動について事例から学びつつ議論することを通して、サステナビリティを自分事として捉えることができる姿勢を涵養する。

学習目標

- ①SDGsの歴史的背景と各ゴールの理論的背景を理解し、説明できる
- ②SDGsの進捗状況と日本と他国の多様な主体の取り組みについて評価体制や方法を理解し、説明できる
- ③SDGsの求める変化や行動について先進的取り組み事例を通して、その動機要因を考察できる
- ④地球と社会のサステナビリティについて自分事として内化し、その行動指針を表現することができる

各回

- ・1授業（90分）は、45分ずつの2セグメントにわかれる
- ・1セグメントは授業動画（10-15分）とライブセッションにわかれる
- ・事前学習の課題
- ・各回の指導マニュアル とくに7ライブセッション部分

評価評価

- ・アサインメント（事前学習）：30%
- ・討論等のアクティブラーニングへの参加：20%
- ・全体を振り返るエッセイ/フィナル・レポート：50%

7ライブ版

15回の授業内容

回数	授業概要・イントロダクション	担当
1	授業概要・イントロダクション	中司
2	共通の前提	中司
3	SDGsを考えるーアフリカ地域と食料問題を中心にー	中司
4	SDGsをめぐるグローバル・ガバナンス	中司
5	SDGs13と14に関連する学際的動向としての地球科学と海洋科学	中司
6	SDGsの推進とカーボンニュートラルの戦略	中司
7	SDGsとESG投資	中司
8	ヒトとヒト、ヒトとモノ、モノとモノのつながり	中司
9	アジア（中国・韓国）と日本のSDGs進捗を学ぶ	中司
10	日本における移民・外国人の受入れとSDGs	中司
11	行動と変化から学ぶーSDGs実践編ー	中司
12	ジェンダーとSDGsー議論を促す60分「2人対2人」からー	中司
13	歴史文化遺産を巡るESD	中司
14	持続可能な未来を創るーわたしたちのシナリオセッションー	中司
15	まとめ	中司

動画一覧

7ライブ版

国連SDGs入門

「行動の10年」のためのサステナビリティの学び

Introduction to the UN SDGs: Learning Sustainability for the Decade of Action

授業動画のダイジェスト（約20分）

12大学+総研1件

これまで

これから

2020年度（09-30）

- ①参加大学の多様性、SDGsの特殊性・実践性、多様なカリキュラム観
- 年度末カリキュラムセッションでの提言：プロトタイプ版授業の構築へ

2021年度

- ①分科会の形成、HLPF
- ②授業プラン書集ー12大学
- ③6テーマ実践ー理論
- ④指導マニュアルと事前学習の作成
- ⑤授業動画とライブセッションの作成
- ⑥大学同士のビデオレビュー

2022年度

- ・新分科会の形成
- ・4月より一部大学で試験的に実施
- ・ピアレビュー、担当者や学生からのフィードバックから改善へ
- ・夏季セミナーでの集中実施
- ・高大機関での利用？
- ・専門科目レベルの開設？
- ・6ヶ月以内での授業構築？
- ・SDG-UP大学間交流協定の締結
- ・SDG-UPで利用するLMSなどのプラットフォームの開発

指導マニュアル例／事前学習の素材例

【パネルディスカッション】

今後の展開について

パネラー

- ・池谷美衣子（東海大学）
- ・岡村利恵（お茶の水女子大学）
- ・日高京子（北九州市立大学）
- ・村田俊一（SDG-UPアドバイザー）

司会

- ・志南啓（関西学院大学）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

17 GOALS

Ⅱ. 地域連携活動の一覧と報告

1. 地域連携活動実績一覧

(1) 連携協定一覧

- ・ 2014（平成 26）年 6 月 1 日
岡山市教育委員会との間で連携協力に関する協定を締結
- ・ 2014（平成 26）年 8 月 8 日
早島町との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・ 2014（平成 26）年 8 月 25 日
株式会社山陽新聞社と包括的連携協力に関する協定を締結
- ・ 2014（平成 26）年 8 月 25 日
こくさいこどもフォーラム岡山との間で包括的連携協力に関する協定を締結連携協力に関する協定を締結
- ・ 2016（平成 28）年 5 月 12 日
和気町との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・ 22018（平成 30）年 5 月 23 日
岡山市農業協同組合（JA 岡山）との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・ 2018（平成 30）年 11 月 2 日
岡山市との間で包括的連携協力に関する協定を締結

(2) 連携協定に基づく活動実績一覧（締結順）

1) 岡山市教育委員会との実績

年 月 日	内 容
【継続】2020(令和2)年 6月29日	岡山市特別支援連携協議会委員に児童学科 青山新吾准教授が委嘱。 委嘱期間：2020 年 8 月 1 日～ 2022 年 7 月 31 日
2021(令和3)年4月13日	令和 3 年度専門家支援チーム会議への児童学科 青山新吾准教授の派遣依頼（指導助言者）。派遣日：4 月 13 日、4 月 23 日、5 月 21 日、6 月 25 日、7 月 2 日、9 月 24 日、10 月 22 日、11 月 26 日、12 月 24 日、2022 年 1 月 28 日、2 月 25 日
2021(令和3)年7月13日	「令和 2 年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価に係る外部評価委員意見交換会」に現代社会学科 二階堂裕子教授が出席。
2021(令和3)年8月13日	令和 3 年度第 1 回岡山市特別支援連携協議会への児童学科 青山新吾准教授の派遣依頼。日時：9 月 30 日（木）
2021(令和3)年8月18日	第 5 回岡山市社会教育委員会に現代社会学科 二階堂裕子教授が出席。
2021(令和3)年11月9日	令和 3 年度「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」岡山市立富山小学校授業研究会に指導助言者として、児童学科 赤木雅宣教授が国語科の授業に関する研修会へ参加。
2021(令和3)年9月28日	岡山市社会教育委員として現代社会学科 二階堂裕子教授が委嘱。 委嘱期間：2021 年 10 月 1 日～ 2023 年 9 月 30 日

2021(令和3)年11月12日	「令和3年度子どもが輝く学びづくりプロジェクト 岡山市立城東台小学校授業研究会」に指導助言者として、児童学科 赤木雅宣教授が国語科の授業に関する研修会へ参加。
2021(令和3)年12月20日	第1回岡山市社会教育委員会議に現代社会学科 二階堂裕子教授が出席。
2022(令和4)年1月14日	令和3年度情緒障害通級指導教室担当者研修会に児童学科 東俊一准教授が講師派遣。
2022(令和4)年3月24日	第2回岡山市社会教育委員会議に現代社会学科 二階堂裕子教授が出席。

2) 早島町との実績

年 月 日	内 容
2021(令和3)年9月14日	早島町が「第3次早島町子ども読書活動推進計画(案)」の意見集約について、児童学科 片平朋世講師に依頼。
2021(令和3)年10月26日	「第3回第3次早島町子ども読書活動推進計画策定協議会」に児童学科 片平朋世講師が出席。
2021(令和3)年11月17日	早島町男女共同参画推進委員会委員として、現代社会学科 山下美紀教授が委嘱。委嘱期間：2021年12月1日～2023年11月30日

3) 株式会社山陽新聞社との実績

年 月 日	内 容
【継続】2021(令和3)年2月～現在	山陽新聞「山陽新聞をよんで」への現代社会学科 濱西栄司准教授(本センター長)の寄稿(2か月に1度)。
2021(令和3)年4月1日	山陽新聞カルチャープラザ講師として英語英文学科 広瀬佳司教授に派遣依頼。出張講義「原書で読むアメリカ文学」 期間：2021年4月1日～2022年3月31日
2021(令和3)年4月1日	山陽新聞カルチャープラザ講師として日本語日本文学科 東城敏毅教授に派遣依頼。出張講義「『万葉集』の世界」 期間：2021年4月1日～2022年3月31日
2022(令和4)年5月13日	吉備創生カレッジ講師として日本語日本文学科 伊木洋教授に講師依頼。出張講義「ブックコミュニケーション～ブックコミュニケーションを楽しむ～」
2022(令和4)年7月12日	吉備創生カレッジ講師として児童学科 池田尚子准教授に講師依頼。出張講義「日本の四季を歌う～童謡・唱歌を美しい発音で歌う～」
2022(令和4)年12月6日	吉備創生カレッジ講師として英語英文学科 広瀬佳司教授に講師依頼。出張講義「ユダヤ人と日本人の関わり」
2022(令和4)年12月14日	吉備創生カレッジ講師として食品栄養学科 焰硝岩政樹教授に講師依頼。出張講義「災害時の食の備え～あなたの食事は大丈夫?～」

4) こくさいこどもフォーラム岡山(インターキッズ)との実績

年 月 日	内 容
2021(令和3)年10月3日	第10回国際塾の講師として現代社会学科 濱西栄司准教授(本センター長)に講師依頼。出張講義「SDGsと男女共同参画」 【詳細は活動報告に掲載】

5) 岡山市農業協同組合（JA 岡山）との実績

年 月 日	内 容
2020(令和2)年9月25日 ～継続中	JA 岡山と食品栄養学科（小山洋子研究室）の連携活動「未来の米食育プロジェクト」
2022(令和4)年3月3日	新オリジナル精米商品「晴々ロマン（はればれろまん）」の成果報告会の実施。【詳細は活動報告に掲載】

6) 岡山市との実績（その1：委嘱・依頼関係）

年 月 日	内 容
【継続】2019(平成30)年 11月	岡山市人事委員会委員として、児童学科 西井麻美教授が委嘱。 委嘱期間：2019年2月1日～2023年1月31日
【継続】2020(令和2)年 3月26日	岡山市男女共同参画専門委員会委員（副委員長）として、現代社会学科 濱西栄司准教授（本センター長）が委嘱。 委嘱期間：2020年4月1日～2022年3月31日
【継続】2020(令和2)年 5月11日	岡山市北区区づくり推進事業審査会委員（副委員長）として、現代社会学科 濱西栄司准教授（本センター長）が委嘱。 委嘱期間：2020年6月1日～2022年5月31日
【継続】2020(令和2)年 5月13日	岡山市都市計画審議会委員として、現代社会学科 二階堂裕子教授が委嘱。委嘱期間：2020年7月1日～2022年6月30日
【継続】2020(令和2)年 6月17日	岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会委員として、現代社会学科 山下美紀教授が委嘱。 委嘱期間：2020年7月1日～2022年6月30日
【継続】2020(令和2)年 7月22日	岡山市防災会議委員として、人間生活学科 山本幾子准教授が委嘱。 委嘱期間：2020年9月1日～2022年8月31日
【継続】2020(令和2)年 7月27日	岡山市国民保護協議会委員として、人間生活学科 山本幾子准教授が委嘱。委嘱期間：2020年9月1日～2022年8月31日
【継続】2020(令和2)年 11月9日	岡山市基本政策審議会委員として、現代社会学科 山下美紀教授が委嘱。委嘱期間：2020年11月15日～2022年11月14日
2021(令和3)年2月3日	石山公園活用検討会副会長として、人間生活学科 成清仁志准教授が委嘱。委嘱期間：2021年4月1日～2023年3月31日
【継続】2021(令和3)年 4月1日	市民の童話賞選考委員として、児童学科 村中李衣教授、日本語日本文学科 星野佳之准教授が委嘱。 委嘱期間：2021年4月1日～2023年3月31日
【継続】2021(令和3)年 4月1日	岡山市文学賞運営委員として、日本語日本文学科 山根知子教授が委嘱。委嘱期間：2021年4月1日～2023年3月31日
2021(令和3)年4月12日	岡山市「公の施設の指定管理候補者選定委員会」委員として、人間生活学科 大東正虎教授が委嘱。 委嘱期間：2021年6月17日～2023年6月16日
2021(令和3)年4月27日	第1回岡山市男女共同参画専門委員会に現代社会学科 濱西栄司准教授（本センター長）が出席。
2021(令和3)年5月24日	岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する事業者表彰選考委員会への現代社会学科 濱西栄司准教授（本センター長）の派遣依頼。

2021(令和3)年6月27日	岡山市男女共同参画推進週間「さんかくウィーク 2021」コメンテーターへの現代社会学科 山下美紀教授の派遣依頼。
2021(令和3)年7月15日	第2回岡山市男女共同参画専門委員会に現代社会学科 濱西栄司准教授(本センター長)が出席。
2021(令和3)年8月19日	第3回岡山市男女共同参画専門委員会への現代社会学科 濱西栄司准教授(本センター長)の派遣依頼。
2021(令和3)年9月3日	岡山市「令和3年度岡山市まち・ひと・しごと創生市民会議」への現代社会学科 濱西栄司准教授(本センター長)の出席依頼。
2021(令和3)年9月15日	岡山市消費者教育推進地域協議会委員として、人間生活学科 豊田尚吾教授(本センター所員)が委嘱。 委嘱期間：2021年10月1日～2023年9月30日
2021(令和3)年9月30日	令和3年度「地域と家庭の子育て推進事業・ファミリーサポート事業」第2回研修会講師として児童学科 湯澤美紀教授を派遣。
2021(令和3)年10月5日	第4回岡山市男女共同参画専門委員会に現代社会学科 濱西栄司准教授(本センター長)が出席。
2021(令和3)年10月27日	岡山市 旭川まちづくり計画検討・推進会議副委員長として、人間生活学科 成清仁士准教授が委嘱。 委嘱期間：2021年11月1日～2023年3月31日
2021(令和3)年11月8日	第5回岡山市男女共同参画専門委員会への現代社会学科 濱西栄司准教授(本センター長)の派遣依頼。

7) 岡山市との実績(その2：地域連携・SDGs推進センター直轄の連携活動)

年 月 日	内 容
【継続】2019(令和2)年10月～2021年9月	岡山市(交通政策課)と株式会社サイカパーキング(指定管理者)と本学の産官学三者連携活動「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」 【詳細は活動報告に掲載】
2021(令和3)年8月2日	岡山市コミュニティサイクル「ももちゃり」の利用者向けリーフレット・マップの完成
2021(令和3)年9月9日	岡山市担当者とリーフレット広報についてオンライン打ち合わせ
2021(令和3)年9月24日	「ももちゃり MAP」について学生にNサポで紹介。
2021(令和3)年11月8日	山陽新聞にももちゃり新リーフレットに関する記事掲載。

・アドバイザー事業

2021(令和3)年5月15日	岡山市担当と新しい市民活動支援アドバイザー制度について打ち合わせ(本学学生もアドバイザーに)。
2021(令和3)年6月22日	市民活動支援アドバイザーチラシの決定・配布。
2021(令和3)年12月23日	学生にアドバイスを求める市民団体と事前うちあわせ(1時間)。
2022(令和4)年1月17日	団体への学生のアドバイス(2時間)。【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年3月22日	市民団体へのフォローアップ(1時間)。

・その他

2021(令和3)年6月25日	岡山市協働事業報告会・研修会で「ナッジ」について講演。 【詳細は活動報告に掲載】
2021(令和3)年12月21日	岡山市政策企画課「第2期岡山連携中枢都市圏ビジョン(素案)」及び「岡山市DX推進計画(素案)」のパブリックコメントについて学生にNサポで紹介。
2021(令和3)年12月27日	岡山市主催リーダー講座「大学生の地域活動体験」参加者募集について学生にNサポで紹介。
2022(令和4)年2月10日	岡山市と第一生命保険(株)西営業所岡山支店からの寄付の使途について打ち合わせ。

8) 岡山市との実績(その3: 担当教員を介した連携活動)

年 月 日	内 容
2021(令和3)年8月20日 ～2022(令和4)年2月19日	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」ツボジョーワールド探検隊(日本語日本文学科 山根知子研究室)の連携活動【詳細は活動報告に掲載】
2021(令和3)年8月20日 ～2022(令和4)年2月19日	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」清心・奉還町TFTチーム(人間生活学科 豊田尚吾研究室)の連携活動【詳細は活動報告に掲載】
2021(令和3)年8月20日 ～2022(令和4)年2月19日	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」岡山どこ行く晴れマチnavi(略して、「晴れnavi」)(人間生活学科 葉口英子研究室)の連携活動【詳細は活動報告に掲載】
2020(令和2)年11月21日 ～継続中	岡山市産業観光局観光部プロモーション・MICE推進課、NPO みんなの集落研究所、人間生活学科(葉口英子研究室)の連携活動「日本遺産『桃太郎伝説』をテーマにした体験型おもてなしプログラム」
2020(令和2)年11月中旬 ～継続中	岡山商工会議所、人間生活学科(葉口英子研究室)の連携活動「『フルーツパフェの街おかやま』のプロモーション活動」

(3) その他の活動実績

年 月 日	内 容
【継続】2021(令和3)年 3月23日	岡山県男女共同参画推進センター運営委員会委員として、現代社会学科 濱西栄司准教授(本センター長)が委嘱。 委嘱期間: 2021年4月1日～2023年3月31日
2021(令和3)年10月6日 ～11月5日	岡山県環境文化部循環型社会推進課資源循環推進班、早島町立早島小学校、食品栄養学科(小川眞紀子研究室)の連携活動「令和3年度未来につなげる! 晴れの国おかやま のこさずたべよう事業」【詳細は活動報告に掲載】
2021(令和3)年12月20日	中国銀行・山陽新聞社・サンマルク財団共催「岡山イノベーションスクール」受講生募集とイベントについて県担当者と打ち合わせ
2021(令和3)年12月21日	「岡山イノベーションスクール」及びイベントの受講生募集について学生にNサポで紹介。
2022(令和4)年2月15日	イノベーションスクール経験者への聞き取りとNサポでの再広報。
2022(令和4)年3月10日	医療法人愛善会 由良病院担当の来学対応(地域連携について)。
2022(令和4)年3月29日	環境省中国四国事務所担当の来学担当(地域連携について)。

2. 地域連携活動報告（一部）

（1）各連携協定に基づく活動（締結順）

【NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山との包括連携協定に基づく活動】

2021 年度「国際塾」の報告

児童学科 福原 史子
(NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山理事)

岡山県下の高校生たちが日本人としてのアイデンティティーと国際感覚を兼ね備え、グローバル社会に適応できる人材に育つことを目指す「こくさいこどもフォーラム岡山（INTERKIDS、会長／秋政孝一）」は、活動の一つとして「国際塾」を毎年開催している。昨年度までに約 500 名の修了生を輩出しており、本年度も 18 期生 39 名の塾生を迎えて、国際問題や文化などを学び、幅広い視野や考える力を身に付けられるよう 11 回の講座を企画し実施した。カリキュラムは表 1 に示す通りである。例年、入塾式と卒塾式を含む複数回を本学地域連携・SDGs 推進センターのご協力のもと、ヨゼフホール 2200JB 教室及びラウンジにて実施しているが、昨年度に引き続き本年度も、新型コロナウイルス感染拡大によって、主に Zoom を活用してのオンライン開催となった。

本学関連の講座としては、第 10 回に同センター長である現代社会学科濱西栄司准教授が「SDGs と男女共同参画—本来の SDGs と行動・実践—」をテーマにオンライン講義をしてくださった。まず、国連大学と本学を含む 30 大学の取り組みをもとに SDGs について解説いただいた。続いて、SDGs の目標 5 「ジェンダー平等を実現しよう」について、岡山駅のスカウト問題に着目して実態を調査し、そのデータをもとに条例改正へと繋げていった事例から、身近な問題について自分たちで行動すれば行政を変えられることをお伝えくださった。最後に、一方向にならないように Zoom のブレイクアウト機能を活用した小グループでのディスカッションの機会も設け、SDGs の視点から身の周りの課題について捉えるよう導いてくださった。第 11 回の卒塾式では、年間テーマである「ゼロカーボンエコノミー 2050 ～私たちは岡山でどう貢献するか？」について追究した成果を、塾生たちが 4 チームに分かれて英語で発表した。筆者は審査委員として参加した。塾生の英語力の高さと、他校の生徒らと協力し脱炭素社会に向けて行動変容を促す切り口が印象的であった。

包括連携協定により、本学を会場として実施される講座に関しては、本学の学生・教職員が無料で聴講できるようになっている。コロナ禍で本学での開催が難しい状況が続いているが、次年度は本学関係者が多く参加し、有意義な学びができることを期待している。

表1 2021年度第18期「国際塾」のカリキュラム

NO	期日	テーマ	開催場所
第1回	6/6 (日)	入塾式・先輩からのエール<陳達ハnf (大阪大学)、大原綾華 (岡山大学GDP)> 2021年度課題“ゼロカーボンエコノミー2050～わたしたちは岡山でどう貢献するか？” <10/31にチーム別英語で研究発表> 杉山慎策 国際塾塾長 (中国学園大学・中国短期大学 副学長)	ZOOM講座 (岡山理科大学)
第2回	6/27 (日)	グローバル化の時代 岡山から世界へ 中島基善 ナカシマプロペラ(株) 代表取締役会長 ナカシマホールディングス(株)代表取締役社長	ZOOM講座 (西川原プラザ)
第3回	7/11 (日)	館長とめぐる、恐竜研究現場と恐竜の食べた食物 石垣 忍 岡山理科大学特担教授 (理学博士、古生物学)	ZOOM講座 (岡山理科大学)
第4回	7/18 (日)	ハンセン病 隔離政策の歴史 横田廣太郎 元長島愛生園新良田教室教諭	瀬戸内市邑久町 長島愛生園
第5回	8/1 (日)	2021年度課題“ゼロカーボンエコノミー2050～わたしたちは岡山でどう貢献するか？” 杉山塾長講座～自己紹介・チーム配置・年度課題について第1回ディスカッション	環太平洋大学駅前 グローバルキャンパス
第6回	8/22 (日)	くらしき町家留学in大原本邸 大原あかね 公益財団法人 大原美術館理事長／山下陽子 大原本邸館長	ZOOM講座 (倉敷大原本邸)
第7回	8/29 (日)	JAXAとともにアメリカで取り組んだ宇宙教育 藤田 学 県立玉野高校教諭 (物理担当)	ZOOM講座 (西川原プラザ)
第8回	9/19 (日)	あなたの《自分らしさ》が世界へ羽ばたく翼になる～アメリカ・音楽業界の現場から～ 高本りな氏 パークリー音楽大学卒・アメリカ在住ピアニスト・作曲家	ZOOM講座 (駅前セントラルフォレスト)
第9回	9/26 (日)	コロナ後の世界を想像してみよう！～サステナが繋ぐ地域と世界～ 安場直樹 林原(株)社長・長瀬産業執行役員	林原藤崎研究所
第10回	10/3 (日)	SDGsと男女共同参画 濱西栄司 ノートルダム清心女子大学現代社会学科准教授	ZOOM講座 (清心女子大学)
第11回	10/31 (日)	2021年度課題 “ゼロカーボンエコノミー2050～わたしたちは岡山でどう貢献するか？” <チーム別に英語で研究発表> 卒塾式&卒塾パーティー 杉山慎策 国際塾塾長 中国学園大学・中国短期大学 副学長	岡山理科大学 A1号館ラウンジ



図1・2 第10回講座(10月3日)SDGsと男女共同参画



図3・4 卒塾式(10月31日)チーム別英語研究発表

【JA 岡山との包括連携協定に基づく活動】

「JA 岡山 未来の米食育プロジェクト：商品化と販売に至るまで」活動報告

食品栄養学科 小山 洋子

1. 活動の目的と概要

2020 年 9 月より、岡山市農業協同組合と協同して、ブレンド米の商品開発を目指す「未来の米食育プロジェクト」の推進を図る活動をしている。岡山市農業協同組合（以後「JA 岡山」とする）とは 2018 年度から包括的連携協定を結んでおり、今回の活動はその一環にあたる。

本プロジェクトでは、若い世代に米の価値を見直してもらい、減退し続けている米の消費量に歯止めをかけること、「地産地消」の観点から地元産の米の消費拡大につなげることを目的に、指導教員（食品栄養学科 小山）のゼミ生 9 名を中心に活動に取り組んできた。若い世代の興味を引く商品にするために、学生主体でブレンド比率の決定、商品のネーミングとパッケージデザイン、レシピの検討を行い、2022 年 3 月に商品化し販売をするに至った。

2020 年 9 月から 2021 年 3 月までの活動については 2020 年度の本報告書を参考にさせていただきたい。今回はその後の経緯と商品化に至るまでのプロセスについて報告する。

2. 活動実績

JA 岡山より提示された「岡山県南部で生産量が多いアケボノを中心としたブレンド精米」の条件を踏まえ、品種や産地に捉われない、目的や用途に合わせた商品設計を行った（表 1）。また今回は、消費者がどのような商品を好むかを選定する上で、重要な方法として有効とされる人の感覚器官を用いた官能評価（食味テスト）を判断基準の一つとした。

（1）ブレンド比率の検討（2021 年 3 月下旬～4 月上旬）

米を炊飯する時に必要な加水量を決めるため、先行研究を参考に 1.3 倍～1.5 倍の加水量で複数回食味テストを行い、最も評価の高い 1.3 倍とした。次にアケボノに対して、にこまる、ヒノヒカリ、きぬむすめ、朝日の 4 種類の米を 6：4 と 7：3 の割合で食味テストを行い、最も評価の高い 7：3 のブレンド比率に決定した。

（2）ブレンド米の特性の検討（2021 年 4 月中旬～5 月上旬）

家庭での米消費拡大を図るため、家庭用の炊飯器を用いてブレンド米を炊飯し、時間経過とともにブレンド米の特性がどのように変化するかを検討した。時間経過の設定は先行研究を参考に、炊飯直後、保温 4 時間後、放冷 4 時間後とした（写真①、②）。



写真① 食味テストの様子



写真② 4種類のブレンド米と評価用紙

食味テストは外観、香り、味、粘り、硬さを5段階で評価、さらに合計得点を算出し総合評価も行った。その結果炊飯直後、保温4時間後、放冷4時間後の変化が最も小さく安定していた「アケボノ：きぬむすめ（7：3）」に決定した。

表1 JA岡山 未来の米食育プロジェクト日程

期 日	内 容	関係者
2021年 3月下旬～4月上旬	・炊飯時の加水量の検討・決定 ・アケボノ対4品種のブレンド比率の検討・決定	学生
2021年 4月中旬～5月上旬	・アケボノ対4品種のブレンド米における特性の確認 ・4種類のブレンド米について、時間経過による特性の変化の検討 →特性（外観、香り、味、粘り、硬さ）について5段階で評価、 最小1点、最大5点とし合計得点を算出。得点が高いほど好むと判断する。 →時間経過は先行研究を参考に、炊飯直後、保温4時間後、放冷4時間後、 に設定した。	
2021年5月中	消費者のお米に対する意識や使用状況等を把握するために、食品栄養学科学生とその保護者（239組）にアンケート調査を実施。 →回収率85.4%、そのうち有効回答率86.5%	学生
2021年6月～8月	ゼミ生9名がアンケート等調査分析班、レシピ考案班、パッケージデザイン班に分かれて活動を始める。	学生
2021年7月1日	・途中経過と今後の方針などについて、JA岡山、全農パールライス担当の方とオンライン（Zoom）にて打ち合わせを行う。 →ブレンド精米の品種と割合の決定 →アンケート結果に基づき、無洗米に決定	(株)岡山パールライス職員、 JA岡山職員、学生
2021年8月～9月	・《レシピ班》決定したブレンド米を使用したレシピの考案、試作の実施 →岡山産の食材を使用したおにぎり10種類、単品料理3種類 →おにぎりはJA岡山中央会主催「おかやま米おにぎりコンテスト」に応募、 準グランプリと入賞（4種類）を獲得 ・《分析班》アンケートまとめ、考察、ブレンド米の特性のまとめ	学生
2021年9月～10月	・《パッケージデザイン班》パッケージデザインの考案、検討	学生
2021年10月29日	・パッケージデザインについて、JA岡山、全農パールライス担当の方と包材や形態等について話し合う。	(株)岡山パールライス職員、 JA岡山職員、学生
2021年11月下旬	・パッケージ完成、2kgスタンドバックで製品化を進めることを確認	(株)岡山パールライス職員、 JA岡山職員、学生
2021年11月30日	・「お米食育プロジェクト～若い世代に好まれるブレンド米の開発と普及～」と題した卒業論文作成及び提出	学生
2022年2月28日	・オリジナルブレンド精米「晴々ロマン」の完成	(JA岡山より連絡有り)
2022年3月3日	・JA岡山7階ホールにて「成果報告会」の実施 →学生が取り組みの経緯についてスライドを使って発表を行う	(株)岡山パールライス職員、 JA岡山職員、学生他
2022年 3月4日～3月6日	・天満屋岡山本店「てんちか FOOD GARDEN」にて販売促進イベントの実施 →学生も販売に参加	(株)岡山パールライス職員、 JA岡山職員、学生

(3) 無洗米の検討（2021年6月～8月）

消費者側の現状把握のために、学生とその保護者を対象に米に対する意識や使用状況等に関するアンケート調査を実施した。この結果、無洗米に興味・関心のある人が約6割を占めていたこと、無洗米は調理時間の短縮、水の使用量や排水の低減、洗米による栄養価の流出の低減などのメリットもあることから無洗米を進めることとした。一方、「ブレンド米」自体へのイメージがよくなかったため、単種とブレンド米について、食味テストと食味計（株式会社サタケ、TASTEANALYZER）による測定で比較検討したところ、ブレンド米は単種とほぼ変わらない粘りや硬さが保たれていたことが確認できた。

(4) レシピ考案（2021年8月～9月）

今回考案したブレンド米の特徴は、時間が経っても程よい食感と適度な粘りを保ち、白飯はもちろん、おにぎりや丼ものにもよく合うものとなった。この米の特性を活かしながら、岡山県産の食材（黄ニラ、千両なす、連島レンコンなど）をできるだけ多く使用すること、比較的簡単に調理ができることなどに視点を置きレシピの考案を行った。レシピはQRコード化して商品やJAホームページに掲載し、誰でも見るようにした。

(5) 商品名とパッケージデザイン（2021年9月～10月下旬）

商品名は「晴々ロマン」とした。これは、温暖で気候の良い岡山で育った米の良さを伝えたいという思いと、この商品がより多くの食卓に届き、この先も長く多くの人に愛されるお米になってほしい、という学生の願いが込められている。パッケージデザインは、20～30歳代女性の目を引くこと、売り場で目立つロゴであることに加え、清心女子大学の学生らしさを示すために「キャップ」のデザインを組み込んだ。完成したパッケージデザインの詳細説明は写真③、④に示した通りである。



写真③ パッケージデザイン（表面）

パッケージデザイン（裏）



米粒をモチーフにしたキャラクター

ターゲットである若い女性の目を引く。
また、他の商品との差別化をはかる。

商品フレーズ

商品のアピールポイントをできるだけ「キャッチー」に、分かりやすく伝えるようにしている。

ロゴの中にQRコードを組み込む

私たちが考案したレシピをたくさんの人に見てもらえるよう、QRに目が向くようにしている。

写真④ パッケージデザイン（裏面）

(6) 成果報告会と販売促進イベントへの参加（2022年3月）

ブレンド精米「晴々ロマン」の販売に先立ち、2022年3月3日、JA岡山ビルにて成果報告会が行われ、学生（9名）はスライドを使い商品化までの軌跡を発表した（写真⑤）。

続いて3月4日（金）～6日（日）に、天満屋岡山本店（てんちか FOOD GARDEN）にて販売促進イベントが行われた。学生も交代で店頭に立ち、商品の説明などを行った（写真⑥）。



写真⑤ 成果報告をしている様子



写真⑥ 販売イベントの様子

今後は、この「晴々ロマン」が減退し続ける米消費に歯止めをかけるきっかけとなるよう、より広く販売され、定着できるように検討を重ねていく予定である。

【岡山市との包括連携協定に基づく活動：センター直轄】

ももちやり MAP 制作プロジェクト

地域連携・SDGs 推進センター長／現代社会学科 濱西 栄司

ももちやり MAP 制作プロジェクトは、岡山市（交通政策課）とサイカパーキング株式会社、および本学（地域連携・SDGs 推進センター）の産官学連携プロジェクトである。2019 年 10 月より市市民共同企画総務課を介して事前協議が始まり、同年 12 月から学生有志 11 名（1～3 年生）で開始された。感染症のために、一時、活動休止せざるを得なかった。2020 年 6 月よりオンラインで再開され、11 月には中間報告会が実施された（新聞記事）。なお中間報告会には現代社会学科 1 年生（当時）有志もコメンテーター役で参加していた。



その後、店舗取材へ進み、デザイン等を経て、ぶじ完成に至った（新聞記事）。



・具体的な作業過程については、以下の参加学生からの報告をご覧いただきたい。

ももちゃり MAP 制作プロジェクト

現代社会学科 4 年 黒田 葉古

2021 年 9 月、約 2 年間の活動期間を経て、ももちゃり MAP が完成した。2019 年 12 月に始まった今回の MAP 制作プロジェクトであったが、新型コロナウイルスの影響により何度も活動の延期や中止を受けながらも、プロジェクトに携わった学生の 1 人として誇らしく思うばかりである。

プロジェクトは大きく分けて 3 つの活動段階があった。1 つ目の活動段階は、ペルソナを「大学生」と「観光客」に絞り、「どのような MAP がペルソナのニーズを叶えるものなのか」を考え、デザインを制作していく活動である（図 1）。岡山駅や運動公園周辺の大学生および観光客に実際にインタビューを行ったり、他都道府県のコミュニティサイクルとの比較を行ったりして、ももちゃりへの理解を学生自身が深めていく作業であったと思う。zoom を用いた遠隔会議が長引くなか、オンライン授業や就職活動に追われる学生は互いの忙しさを理解し、それを補うよう常に協力することができていた。活動に大きな支障が生じなかったのは、学生同士の助け合う姿勢が一切崩れなかったことにあとと筆者は考えている。



図 1 活動の様子

2 つ目の活動段階は、2020 年 11 月に開催された中間報告会（図 2）およびデザインのブラッシュアップである。報告会の主な目的は、制作状況の報告および MAP デザインへのアドバイスを頂くことであり、岡山市やサイカパーキング株式会社の方々、また本学の学生らと意見交換を行った。様々な職業、世代からの意見を集約した後は、それをもとに MAP デザインのブラッシュアップである。文字のフォントや大きさ、配置など細かいことを決める作業であったが、遠隔会議を中心としていたために正直難しかった。その分、岡山市の方々がサポートしていただいたことは、心から感謝している。また、この時期には MAP に掲載予定の飲食店・雑貨店への取材も行っている。MAP への掲載許可やお店の営業情報を得ることが主な目的であったが、先方と連絡がつかなかったり、掲載を断られたり、学生にとっては想像以上に苦戦続きの取材となった。社会勉強という意味でも、簡単には自分たちの思い通りにならない厳しさを、学生それぞれが経験できたと思う。



図 2 中間報告会の様子

そして3つ目の活動段階は、学生の写真撮影およびMAPの印刷である。学生の写真撮影というのは、「ももちゃりを利用している学生の写真を、デザインの一部として掲載することで、MAP利用者は親しみやすさを感じるのではないか」というアイデアから生まれたものである。筆者も撮影に協力した1人であるが、岡山市のデザイン会社が有する本格的なスタジオでの撮影となり、カメラを前にして非常に緊張したことをよく覚えている。しかしながら、プロのカメラマンに協力していただけることの有り難さを強く感じ、より良いマップの制作に努めようと思える時間でもあった。撮影およびMAPデザインの最終確認を終えた後は、いよいよ印刷の作業である。制作予算等の関係から印刷会社と岡山市の方々が担ってくださったために、印刷に学生は殆ど関わってはいないのだが、完成されたMAPを初めて目にした時の感動は凄まじいものであった。“学生同士で何度も話し合いデザインを考えたMAPが、実物として目の前にある”というのは誰もが経験できることではないだろう。学生からは「想像以上に可愛い」、「これは絶対手に取ってしまう」、「ポートに設置されるって、なんか感動する」などの声上がり、2年間の活動を共に経た者同士、それぞれ感動を共有し合っていたと思う。また、MAPの完成から1ヶ月後には山陽新聞からの電話取材を受け、記事の掲載もしていただいた。「制作の上で気をつけていたこと」や「学生として、ももちゃりがどうなってほしいか」などの質問に答えながらこれまでの活動を振り返り、達成感と誇らしさに満ちていくような感覚を得た。

この制作プロジェクトを通して多くの先輩、後輩、岡山市や各企業の方々と出会えたこと、その上で、デザイン制作の方法やコミュニティサイクルの在り方、ももちゃりとSDGsとのつながりなど、学ぶことも考えることも多く自分自身を成長させる機会となり、プロジェクトの1人として携われたことを心から誇りに思う。大学生として伝えたいことが詰まったMAPを、1人でも多くの人が手に取ってくださること、そしてももちゃりを利用し、岡山市のたくさんの魅力に気付いてくれることを願っている。

・その後、筆者と岡山市交通当局が話し合う機会があったので、参加学生および現代社会学科の有志学生よりリクエストを募集し、以下の要望一覧を市に提供した。

自転車・公共交通への不満や改善してほしいこと

- ・自転車専用道路が少なく、車道を走ると自動車から嫌な顔をされる。
- ・自転車専用道路と自動車との距離が近くて怖い。
- ・自転車の走行中、急に自転車専用道路が無くなる時があるのでびっくりする。車道を走るべきだとしても、歩道を走る自転車も普通に見掛けるので何が正解なのか分からない。
- ・自転車は風の強さや方向によって漕ぎにくくなり、目的地到着まで時間がかかる上に髪も崩れる。
- ・雨の中で自転車を漕ぐと、自動車から水溜まりの水をかけられることがある。
- ・目的地付近に駐輪場がなければ不便。違法駐車になってしまう。
- ・ももチャリのサドルは緩い時があり、運転中にサドルが回転したり下がったりする。
- ・段差で自転車から転けそうになる。雨の日は特に怖い。
- ・傘ホルダーがあれば、雨や紫外線から身を守れる。
- ・パンプスやハイヒールの方は自転車を使おうと思わない。
- ・自転車はスカートがめくれたり、後ろ側にシワがついたりする。タイトスカートはサドルに座ることも難しい。
- ・公共交通の吊り革や荷物棚が高く背がたわまない。
- ・路面電車の停車駅において、乗り口と降り口はそれぞれ前側なのか後ろ側なのかが分かりにくい。
- ・路面電車において、次の停車駅のアナウンスと企業のCM・宣伝のアナウンスが同じ声なので区別が付きにくい。常にアナウンスに集中しなければ、次の停車駅を聞き漏らしてしまうことがある。
- ・満員時の電車やバスは隣の人の汗や体臭が気になる。
- ・バスの遅延証明も出してほしい。通学時、遅れたバスからの乗り継ぎで電車に乗り結局授業に遅刻してしまった場合、電車が遅れたわけではないので遅延証明が出来ない。
- ・岡山市中心部とそれ以外で格差が大き過ぎる（2時間に1本のバス、最寄り駅なのに最寄っていないなど）。

岡山市市民活動支援アドバイザーへの本学学生の就任

地域連携・SDGs推進センター長／現代社会学科 濱西 栄司

2021年5月中頃、包括連携協定を結ぶ岡山市市民協働企画総務課より、2021年度から開始する新しい「市民活動支援アドバイザー派遣」制度について筆者に相談があった。この制度は、「市民活動・地域活動を促進し、地域課題の解決を図るため、市民活動団体の活動に助言等を行うアドバイザーを派遣」するものであり、また画期的な取り組みとして本学学生にもアドバイザーとして入ってもらいたい旨、要請があった。処々了承を得たうえで協力することが決まった。その後、実際に市内の消費者団体より、学生目線でのイベント企画や広報についてアドバイスをもらいたいという依頼があり、対応した。詳細は、アドバイザーとなった学生からの以下の報告をご覧ください。



市民活動支援アドバイザーを派遣します！

市民活動支援アドバイザー派遣とは？
10団体限定

市民活動・地域活動を促進し、地域課題の解決を図るため、市民活動団体の活動に助言等を行うアドバイザーを派遣します

制度の概要

○地域課題の解決を図る具体的な非営利の活動が対象です
○約2時間を目安に、助言してほしい内容に沿った講座・座学・ワークショップなどを実施します。アドバイザーによって内容は変わります。
(例) Zoom等を利用して、高齢者の交流事業が始めたいが、具体的な方法を教えて欲しい。※パソコンソフトの使い方だけでは対象となりません
(例) チラシを作るので、若い人から直接意見を聞きたい
※アドバイザーの指定する資料等は団体側の準備となります
○フォローアップとして実施後2か月以内に2回程度、派遣されたアドバイザーに、追加の質問や相談を行うことができます
○派遣期間は、令和3年7月1日～令和4年2月15日

アドバイザー一覧

※アドバイザーは都合により変更する場合があります

内容	アドバイザー
ICT ZoomなどのICTを活用した地域活動	杉本 倫典(庵之口学区電子町内会)
ICT 支援者拡大のためのマーケティング・データ活用	奥田 修平(認定NPO法人ポケットサポート)
資金調達 助成金の選び方、書類等の作成支援	和田 広子(公財) 福武教育文化振興財団)
地域活性化 さまざまな組織と共に地域で活動する上での付き合い方やポイント	美咲 美佐子(NPO法人岡山市子どもセンター)
地域活性化 地域の特性(人・物・環境など)を活用して、地域を元気にする活動について学ぶ	藤原 基勝(高野尻村をつくる会)
情報発信 効果的な広報・プレゼンテーションのポイント	井口 陽平(NPO法人若者応援コミュニティのりす)
情報発信 イベント、パンフレット作成、イベントの実施にあたり、大学生から直接意見をもらう※講座等は実施しません	ノートルダム清心女子大学学生(ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs推進センター)
福祉 地域と社会福祉法人が繋がる地域活動の始め方	前田 泰史(社会福祉法人報恩講義会)
福祉 地域の困りごとの把握方法と支え合い活動の始め方	柿崎 由秀(平島健康福祉委員会) 岡家 悠行(とみやま助け合い隊)
ESD ESD活動の導入	池田 満之(岡山市京山地区ESD-SDGs推進協議会)

裏面に続きます

申請手続き

申請からアドバイザーの派遣までの流れは以下の通りです

事前相談

派遣調整

アドバイザー派遣

追加の質問・相談

ESD・市民協働推進センターに派遣内容の相談

相談内容を基にアドバイザー内容、日程を調整

アドバイザーによる講義、座学、ワークショップ等を開催

さらなる課題や疑問等があれば、アドバイザーへ質問・相談

※相談内容やアドバイザーの都合等により必ず派遣されるものではありませんので、ご了承ください

対象となる団体

岡山市内に活動拠点を置く非営利の市民活動団体であり、令和3年4月1日時点で次の①または②を満たす団体

①「岡山ESDプロジェクト」参加団体、または「つながる協働ひろば」団体検索サイトに登録している市民活動団体

②1年以上継続して活動している市民活動団体

注) 民間企業、政治団体、宗教団体等は対象外といたします

申請書類・提出先

以下の書類を郵送または持参でご提出ください

- 市民活動支援アドバイザー派遣申請書(様式第1号)
- 団体概要書(様式第2号)
- その他必要と認めるもの

※申請用紙は「つながる協働ひろば」でダウンロードできます

【申請期間】
令和3年7月1日～
令和3年12月28日

【提出先・お問い合わせ先】
住所: 700-8544 岡山市北区大井1丁目1番1号
ESD・市民協働推進センター(岡山市市民協働企画総務課内)
連絡先: Tel 086-803-1062 / FAX 086-803-1872
受付時間: 平日8:30～17:15(土日祝除く)
メールアドレス: esd-smc@googlegroups.com

QRコードの商標はデンソーウェアの登録商標です

特定非営利活動法人・消費者ネットおかやまが主催する講演会や、消費者問題の情報を若い世代へと届ける方法についての会合に、今回私は、大学生の立場から意見やアドバイスを伝えるために参加しました。

多くの学びや気付きはありますが、特に感じたことは、情報発信や講演会についての考え方、消費者問題への関心の有無など、消費者ネットおかやまと若い世代との間の意識の違いです。若い世代の多くが、基本的に紙媒体のチラシは見ず、講演会は敷居が高いと感じ、消費者問題については考えたこともないのが実態だと思います。事実、私もその1人でした。そのため、情報収集に最適なInstagramの利用や、カフェ等と連携した講演会を提案しました。前者は、若い世代なら誰もが使う情報収集の手段であり、最近では行政やNPOなども利用しています。ユーザーと簡単に交流も行えるため、チラシとは違って一方的に情報を得るのではなく、“ユーザーから消費者ネットおかやまへ”という相互交流が可能なのです。後者は、カフェを会場としてお茶やお菓子と一緒に講演会を聴くというアイデアです。講師と参加者の距離感が近く質問や相談を気軽に行えたり、知り合いや友人を誘いやすかったりするため、若い世代の参加者も増えるだろうと思います。消費者ネットおかやまの方々にとって、このような意見やアドバイスは非常に新しく難しい部分もあるかと思いますが、大学生の声を真摯に受け止めてくださり嬉しかったです。「自分なら、どうしたら消費者問題に関心を持つか」を基に考えたため、他の若い世代にも刺さってくれることを期待しています。

さらに翌々月には、消費者ネットおかやまが作成したInstagramアカウントへの、フォローアップ事業にも参加しました。ストーリー機能の応用はもちろん、脱毛等への関心が強い“美容垢”への情報の届け方、若い世代が興味を持ちやすい画像の投稿方法など、その使い方の多さには消費者ネットおかやまの方々も驚いている様子でした。「教えてもらったことをいっぱい使っていきたい」と仰っていただき、私もInstagramユーザーの1人として、消費者ネットおかやまのアカウントをチェックしていこうと思っています。

今回の派遣事業に参加し、消費者としての意識と責任感、そして正しい知識と情報を持つことがとても大切だと学びました。また社会科教員を目指す身として、学校教育における消費者問題の扱い方も考えさせられたと思います。この派遣事業が、1人でも多くの消費者、特に若い世代に役立ってくれることを願っています。

・アドバイスの様子（山陽新聞掲載）

山陽新聞 2022年(令和4年)1月19日 水曜日

18歳成人で消費者被害増懸念

女子大生がNPOにアドバイス

民法上の成人年齢が18歳に引き下げられるのに伴って、心配される消費者問題の増加を防ぐと、対象世代に情報を届ける方法を考える会合が17日、岡山市内であった。出席したノートルダム清心女子大生が「具体的に起こり得る問題をSNSに上げて」などとアドバイスした。



若者目線で助言するノートルダム清心女子大の（左から）黒田さんと秋山さん

SNSで起こり得る問題を紹介を

NPO法人・消費者ネットおかやまによくと、未成年は親の同意がない場合に契約を取り消せるが、4月から18、19歳が対象から外れ、安易な契約から高額な請求や解約トラブルの被害増加が懸念されている。同法人は3月に若者対象の講演会を予定しており、同大地域連携・SDGs推進センターに助言を依頼。4年黒田葉古さん(22)と同大学院1年秋山桃子さん(23)が出席した。

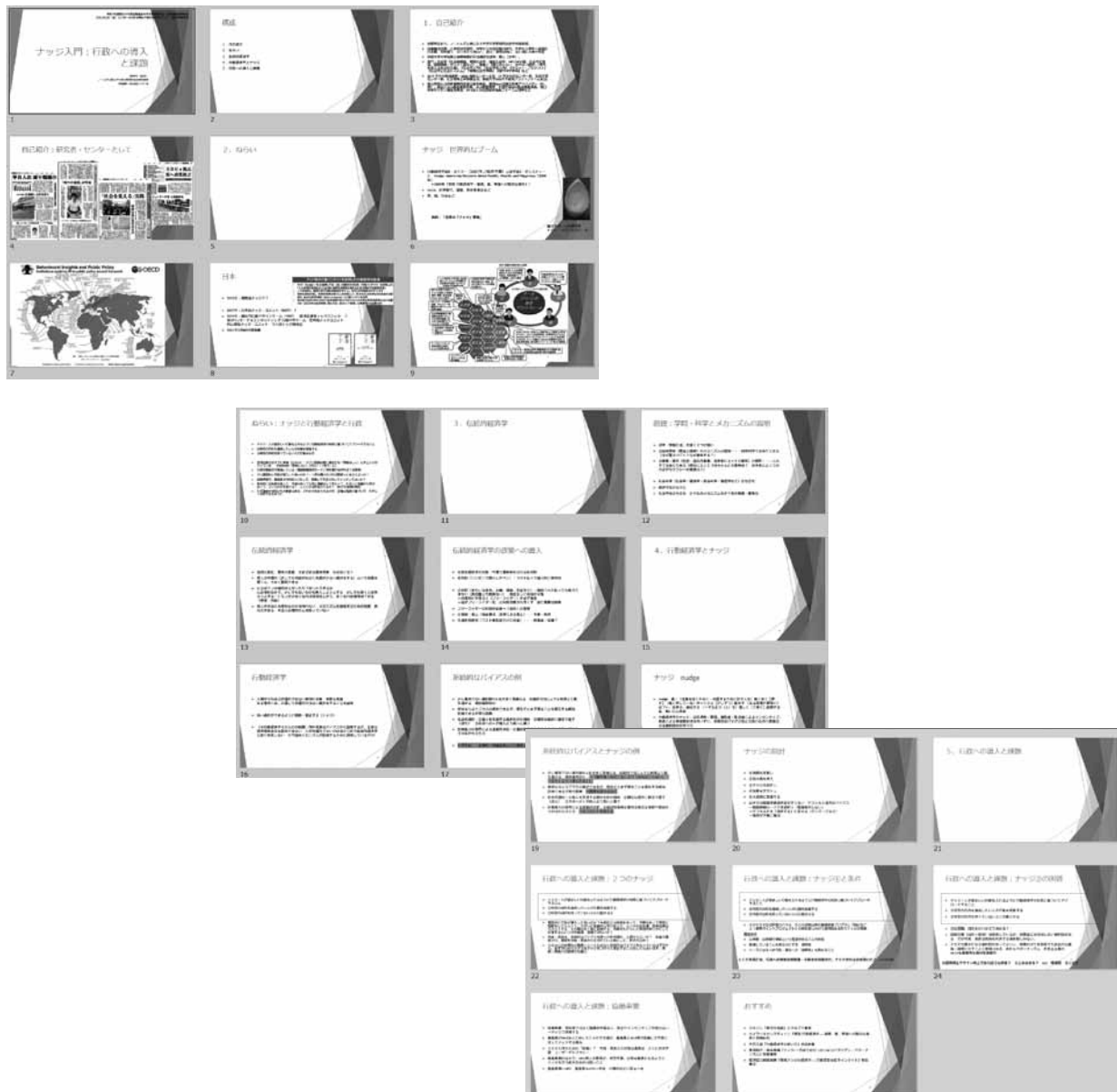
2人は「いきなり講演会では敷居が高い」とし、まず問題意識を持ってもらうために、Instagramなどを活用して事例を紹介することを提案した。さらに「カフェなど若者が集まる場所と連携して相談会などを開いては」と話した。

岡山市の市民活動支援アドバイザー派遣事業の一環。同法人は協議内容を今後の広報活動に生かす。(斎藤章一朗)

市研修会講演「ナッジ入門：行政への導入と課題」（センター直轄）

地域連携・SDGs 推進センター長／現代社会学科 濱西 栄司

2021 年度 4 月に、包括連携協定を結ぶ岡山市市民協働企画総務課より「令和 3 年度岡山市市民協働推進モデル事業報告会・協働推進員研修会」において、筆者に「ナッジ」に関する講演依頼があった。会の目的は「岡山市が抱える社会課題への理解を深めつつ、事業の成果や協働のノウハウを広く共有します。なお、本報告会は 岡山市協働推進員の研修会を兼ねることとして、協働推進員の『協働のまちづくり条例』や『協働推進計画』に対する理解を深め、よりよい協働の実践を後押しすること」にある。筆者は「ナッジ入門：行政への導入と課題」と題して、以下の講演を行った。



【岡山市との包括連携協定に基づく活動：学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト】

「ツボジョーワールド探検隊」：坪田譲治文学から SDGs への試み

日本語日本文学科 山根 知子

岡山市出身の小説家・児童文学作家「坪田譲治」(1890 - 1982) については、本学はその生家やゆかりの地に近く、本学の附属図書館では特殊文庫「坪田譲治コレクション」を有しており、坪田譲治の研究および普及活動を本学の使命としてきました。2017 年度に始まった日本語日本文科学科学生有志による「ツボジョーワールド探検隊」は、今年度 5 年目を迎え、新たな地域連携への可能性を模索し、譲治文学の世界に描かれた自然環境のなかでも譲治の愛した川と川辺のいきものに注目することによって SDGs につなげる取り組みを行ないました。

今年度は、昨年度のコロナ禍での 1 年休止後再開した岡山市の「学生イノベーションチャレンジ推進事業」に参加をすることができ、学生の活動自体は昨年同様、オンラインでの作業や準備も多かったものの、新たな「坪田譲治紹介冊子」を作成し、今年度の新たな挑戦となった 11 月 21 日（日）の 2 公民館をつなぐイベント企画をメイン行事として多くの団体と協働して実現し、その前後にも複数の関連する行事に参加しました。

【協働した団体】

岡山市立公民館 公民館振興室
岡山市立岡西公民館
岡山市立京山公民館
株式会社ウエスコ
坪田譲治の生家への道と童話を生んだ
能登川を整備する会
大安寺中等教育学校 メディア部
岡山市文化振興課
岡山市立石井小学校



坪田譲治紹介冊子『みどりと水のみちへ』

今年度の坪田譲治紹介冊子では、譲治ゆかりの川として、旭川から取り入れられた西川から枝分かれする二つの用水である観音寺用水と能登川用水に着目して、譲治の川への思い入れと、川辺のいきものへの言及について紹介しました。水路マップおよびいきもののイラストや説明において、その正確さを追究するため、様々な専門家に助言をいただいたおかげで、満足のいく仕上げができたことは、学生たちの大きな学びと達成感につながりました。



冊子の見開き頁「譲治ゆかりの岡山水路マップ」



譲治母校・岡山市立石井小学校にて全児童に冊子を贈呈（2020 年 12 月 21 日）

また、実際に二つの用水で、10月に川の水質と生きものの生息状況を調査する岡西公民館と京山公民館の行事に参加することで、その二つの用水の現状を水に入って肌で体験し、岡山のきれいな川やそこに住むいきものたちを未来に残すために、地域みんなで守っていきたいという思いを持てるようになり、そうした体験と思いをその後の公民館での企画イベントに生かしました。

主催：ノートルダム清心女子大学「ツボジョーワールド探検隊」 共催：岡山市立岡西公民館・岡山市立京山公民館

坪田譲治がつなぐ私たちのふるさと ～水辺のいきものたちとともに～

石井孝子（島田）出身の児童文学作家で、岡山市名誉市民の坪田譲治をご存じですか？ 坪田の作品には私たちの住むまちの明治の頃の豊かな自然の様子が書かれたものが多くあります。
坪田譲治の人物像や書かれた作品のことをよく知っている人も、名前しか聞いたことがないという人も、ふるさとの人・坪田譲治と彼がつなぐ岡山愛にあふれる作品の中での石井・京山中学校区の川やいきものについて、大学生や高校生ならではの視点・切り口から学び、これからは大切にしたいふるさととあり方を一緒に考えましょう。

写真提供：坪田譲治を撮影する会

【日時】 11月21日（日）13:30～15:30
【会場】 岡西公民館…2階講座室、京山公民館…第1講座室（※2つの公民館をオンラインで結んで開催します。）
【対象／定員】 幼児・小学生から大人までどなたでも／岡西公民館…45人／京山公民館…30人（両会場とも先着順）
【内容】 ノートルダム清心女子大学 文学部 日本語日本文学科「ツボジョーワールド探検隊」のみなさんによるレクチャー
 坪田譲治の川といきものへの思いの紹介、譲治ゆかりの「能登川用水」「観音寺用水」の今と昔の紹介、DVDの上映、ツボジョー体験の紹介、坪田譲治と川やいきものに関するクイズなど。学生による「観音寺用水」についての発表後、京山地区住民の方からの活動紹介もあります。
 大安寺中等教育学校 メディア部のみなさんによる映像発表
 メディア部が作成し、全国大会で表彰されたダルマガエルに関する映像の上映（初公開!）と、その作成秘話。
 おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクトのみなさんによるバザー
 ダルマガエル保全活動の協力をブランド米「大野ダルマの大会場」の販売。

【申し込み】 10月18日（月）9:30～ 参加を希望する公民館窓口・電話でお申し込みください。

【申し込み・お問い合わせ先】

こうざい 岡山市立岡西公民館 岡山市北区下伊福西町1-48 電話・FAX 086(253)7581	岡山市立京山公民館 岡山市北区伊島町二丁目9-38 電話・FAX 086(253)8302
--	--

岡西公民館・京山公民館で同時開催したイベントのチラシ

公民館イベントでは、譲治ゆかりの地域である岡西公民館と京山公民館をオンラインでつなぐという岡山市における初の企画をしました。学生たちの行事後の感想では、あまり接する機会のない公民館職員と協働することができ、また地域の参加者と触れ合う貴重な経験ができ、行事が成功したことで、自信も生まれたとのことでした。

今後についても、譲治文学を深く掘り下げてそこに描かれた岡山の諸要素について多くの人に知ってもらえるような活動をしていき、今回、文学に描かれた自然環境をクローズアップしたように、次回も意外性のある分野との新たな繋がりを見つけていくことで、文学からSDGsに迫る新しい視点からの活動に挑戦していきたいと、学生たちは充実感をもって述べてくれました。



『山陽新聞』2022年1月31日



「LIFE おかやま」2021年12月20日公開
<http://www.okayama-tbox.jp/life/pages/16223>

最後に、今年の活動日程は以下の通りでした。コロナ禍にあっても工夫して冊子完成や各行事の順番まで着実に進めた学生たちの活動の様子をお伝えできれば幸いです。

ツボジョーワールド探検隊活動日程

月	日	活動名	場所	活動内容
6	1	ツボジョーワールド探検隊5期生結成	zoom	・活動方針、冊子作成について話し合い
		※毎週のzoomミーティングで冊子原稿作成を進める（～9月下旬）		・冊子作成作業
9	14	ミーティング	zoom	・公民館行事についての話し合い
	28	ミーティング	zoom	・公民館行事についての話し合い
10	5	ミーティング	zoom	・公民館行事についての話し合い
	6	冊子原稿完成・納品		・坪田譲治紹介冊子「みどりと水のみちへ～譲治がくれた〈いのち〉の感覚～」原稿の仕上げ
	12	ミーティング	zoom	・公民館行事についての話し合い
	15	冊子発行		・坪田譲治紹介冊子「みどりと水のみちへ～譲治がくれた〈いのち〉の感覚～」発行
	19	ミーティング	zoom	・公民館行事についての話し合い
	23	能登川用水の環境調査	能登川用水	・「能登川用水を下る お魚ちょ～さ隊」参加
	26	ミーティング	zoom	・公民館行事についての話し合い
	30	観音寺用水の環境調査	観音寺用水	・「環境てんけん2021 身近な環境調査」参加
11	2	ミーティング	zoom	・公民館行事についての話し合い
	9	ミーティング	zoom	・公民館行事リハーサル
	15	公民館行事の下見	岡西公民館	・公民館行事開催場所の下見
	16	ミーティング	zoom	・公民館行事リハーサル
	21	公民館行事「坪田譲治がつなぐ私たちのふるさと ～水辺のいきものたちとともに～」	岡西公民館・京山公民館	・坪田譲治文学といきものについて、岡山の水環境について等の発表
	29	岡山市 中間報告会	zoom	・学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト 中間報告会参加
	30	ミーティング	zoom	・市民の童話賞での発表についての話し合い
12	7	ミーティング	zoom	・市民の童話賞での発表についての話し合い
	14	ミーティング	zoom	・市民の童話賞での発表についての話し合い
	19	市民の童話賞記念行事参加	西川アイブラザ	・坪田譲治文学と岡山の水環境や生き物についての発表
	21	石井小学校へ冊子の寄贈	石井小学校	・石井小学校の全児童・教員に冊子を寄贈
	22	図書館等への冊子送付作業	本学	・郵送にて冊子発送・寄贈
2	1	ミーティング	zoom	・最終報告会に向けての話し合い
	8	ミーティング	zoom	・最終報告会に向けての話し合い
	15	ミーティング	zoom	・最終報告会に向けての話し合い
	19	岡山市 最終報告会	zoom	・学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト 最終報告会参加

「清心・奉還町 TFT チーム」活動報告

人間生活学科 豊田 尚吾

1. 概要

岡山市の施策で政策局政策部政策企画課が窓口になっている「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト（令和3年度）」に、人間生活学科豊田ゼミ3年生が「清心・奉還町 TFT チーム」として応募し採択された。これは「(学生が) 行政機関、企業、NPO 及び地域団体等と協働し、岡山市内における地域課題の解決や地域活性化を図る」ことなど目的に平成29年から公募されている施策である。

清心・奉還町 TFT チームは①岡山駅西口エリアに賑わい（特に若者）が乏しい、②グローバルな課題に接する機会が少なく、結果として関心も高くない（特に若者）との問題意識から、世界で起きている貧困や飢餓の問題などに関わる機会を作ること、奉還町に若者を集客するために、若者に向けたイベントや情報発信をすることが必要だと考えた。そこで TFT (TABLE FOR TWO) の清心食堂内の導入と、奉還町エリアへの導入を企画書にまとめて提出し採択された。

まず大学食堂に TFT を導入し、定着させ、それを奉還町エリアにも拡大していくというプランである。2021年2月頃から大学食堂を運営する株式会社レパストと交渉をはじめ、7月には導入開始を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大によって学生の来学が制限されたため、本格導入は制限解除後の10月から始めざるを得なかった。様々な啓発活動を行うことで TFT の認知度と参加度を高めることを目標に掲げ実践していった。

並行して奉還町エリアに賛同してくれる店舗を増やすため、営業活動を行った。飲食店の厳しい経営環境もあって導入は結果的に3店舗であったが、同店舗とマーケティング活動を行い、認知度と参加度の向上に努めた。その活動の中で、奉還町商店街青年部会との交流を深め、商店街店主のほか、岡山大学生、中国銀行奉還町支店、関西高校ともネットワークを広げ、2022年2月末に学生主体のイベントを行うこととなった。

高校生の実演販売、飲食店の出店、キッチンカーの誘致、大学生主催の体験教室、古着交換、抽選会などを企画し、あと一步のところまでこぎつけたが、岡山県にまん延防止等重点措置が適用され、結果的に中止せざるを得なかった。

コロナ禍という厳しい活動環境の中、実施が遅れたり断念したりした活動も多くあったが、学生達は非常に活発に行動し多くの実績を積み上げることができたと考えている。

2. 活動実績

①大学食堂への TFT 導入：活動エリアは大学内ではあったが、食堂運業者である株式会社レパスト



(以下レパスト) とのコラボレーションは地域連携活動の一つと考えられる。レパストは給食事業などを全国展開しており、TFT 導入実績もある。そのため、導入交渉は非常にスムーズに、むしろ様々な助言をもらいながら進めることができた。学生も独自に、フェアトレードチョコ配布を通じた啓発活動(複数回)、途上国メニューを食品栄養学科学生の協力のもとメニュー化し関心醸成、クリスマスデザートを学生のアンケートによって決め関心醸成、啓発ポスターの作成、インスタグラムを作ったのグローバル課題啓発の情報発信とフォロワー獲得イベントの実施など様々な活動を企画し実施することでノウハウを蓄積した。

②奉還町商店街エリアへの TFT 拡大:奉還町商店街青年部会の例会(月1度)に参加し、若手メンバーと交流を図ることで活動の下地作りを行い、同時に有用なアドバイスを受けることで、奉還町商店街エリアに TFT を拡大していった。アポイントメントをとり、交渉し、契約し、マーケティングをサポートし、アフターケアも行うという一連の活動を、学生自ら企画し、実践していった。結果として、「DESIGN & COFFEE」「ROSTICCERIA イタリア惣菜屋トミヤ」「モアフル」の3店舗が、コロナ禍で経営環境が厳しい中、期間限定ではあるものの TFT を導入してくれた。インスタでの広告、TFT メニュー注文者に割引券贈呈などの販促活動を提案し、実現していった。

③奉還町商店街におけるイベント企画:青年部会例会で知り合った、中国銀行奉還町支店と協働で2022年2月26日(土)に TFT 啓発も含めたイベントを奉還町商店街で行うことになった。目的は「身近なところからグローバルに触れる」である。中国銀行は関西高校と高校生による実演販売(TFT 含む)、清心は奉還町商店街内の出店(8店舗)、キッチンカーあるいは屋台としての出店(4店舗)を中心に、古着トレード(TFT 募金あり)、抽選会(TFT 関連商品購入者)、岡山大学生によるハーバリウム制作教室などを企画していた。残念ながら同時期にまん延防止等重点措置が岡山県に適用されたため、結果としてイベントは中止せざるを得なくなった。

3. 成果・評価

①若者のグローバル意識の醸成:TFT に対する認知度(TFT を知っている)を導入前、後で調査した結果、大学内では13.7%から62.0%に上昇した。残念ながら奉還町商店街エリアでの調査では認知度の向上は確認できなかった。インスタグラムのフォロワー数は300人を超えた。このプラットフォームは今後のプロモーションにも活用可能である。活動がRSK イブニングニュースでも取り上げられ、現在でも Youtube で視聴可能である。

<https://www.youtube.com/watch?v=3JiMJixGy30>

②TFT 募金実績:TFT の途上国の子供に健康的な食事を提供するという目的に対しては、とりまとめ時点で「延べ1,452人の子供たちに食事を提供できた」ことになる。清心食堂では TFT を継続していく予定なので、一過性のイベントではなく、今後につながる仕組み(の基礎)を作ることができた。

③大学と奉還町商店街、周辺地域企業、団体とのネットワーク構築:活動を通じて奉還町商店街青年部会をはじめ、株式会社レパスト、中国銀行奉還町支店、関西高校、(一社)SGSG などとの関係が構築でき、今後も引き続き協力していくことで合意することができた。またこれらを報告書としてまとめ、岡山市事務局に提出した。

【今後の課題】様々な活動を行い、一定の成果も達成したが、それをどのように次代の学生に引き継ぐかが課題である。

「岡山どこ行く晴れマチ navi」(略して「晴れ navi」) 活動報告

人間生活学科 葉口 英子

長期化する新型コロナウイルス感染症の影響により、とりわけ観光業や飲食業が大きなダメージを受けている。ただし、こうしたコロナ禍にありながらも、岡山市の観光資源を発掘し、それを効果的で魅力的な情報として発信することは、地域の活性化につながると考える。そこで3年ゼミ学生8名から成るメンバーが、令和元年度にも採択された「若者視点の岡山観光地化」の活動を引き継ぎ、その内容をさらにパワーアップさせた取組みとして、「岡山どこ行く晴れマチ navi」(略して「晴れ navi」)という活動を実施した。

とりわけ岡山市固有の観光資源であるパンに主に注目し、ベーカリーショップの商品をはじめ、カフェや飲食店ほか観光スポットでの体験をコンテンツとし、Instagram、Tik Tok などのSNSや動画を通じたプロモーション活動をおこなうことで、岡山市内への来訪や個々のお店での消費行動を促すことを目的とした。また紹介したお店のパンを一堂に集め販売することで、商品やお店を知ってもらい、売り上げに貢献したいという趣旨に加え、アカウント拡散のためのポップアップストア「パン・マルシェ」を2021年12月19日に開催した。

活動の成果は次の4点である。①岡山市内のパン屋、カフェ、飲食店をピックアップし、取材交渉をおこない、市内に点在する店舗をペアで取材した。約半年間で合計45店を訪ね、随時Instagramでの投稿発信をおこなった。



②アカウントやイベントを周知するためのカードやポスターといった広告物を作成し、広報宣伝活動をおこなった。③ポップアップストアでは5時間でパンが完売するなど盛況なイベントとなった。④

「晴れnavi」は半年間で630以上のフォロワーを獲得するという大きな成果をあげた。また山陽新聞(2022/2/20 朝刊)にも活動が紹介され、注目してもらうことができた。



次に、学生にとっての学びの成果は3点ある。①メディア戦略論、広告論で学んだ知識を実践に応用する力を鍛えることができた。②互いが責任を持ち、仕事に取り組む積極性と主体性をもつことができた。またチームワークを大切にし、信頼しあう関係づくりができた。③地元の方の温かさや優しさに触れることができた。活動を通じて各自が岡山市の魅力を改めて知ると同時に、地元への愛着がもつことができた。

今後の目標は、アカウントのさらなる成長と拡散に向けフォロワー1000人をめざすことである。岡山市の魅力や価値を再発見し、効果的で魅力的な“人を動かす”情報の継続的な発信によって、岡山市の観光事業を盛り上げていきたいと考える。

最後に、協働先であるおかやま観光コンベンション協会観光事業部様、岡山市役所産業観光局商工観光部プロモーション・MICE推進課様はじめ、取材や活動の中で多大なご理解とご協力をいただいた45店舗の店主、スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。



(2) その他の連携活動に関する報告

社会福祉課程における地域連携活動について

地域連携・SDGs 推進センター主任 社会福祉課程 濱崎 絵梨

社会福祉士は相談援助を業とする福祉の専門職である。日常生活に何らかの困難を抱える人の相談に応じ必要な支援に繋げる個別支援から、生きづらさや困難な状況の背景にある社会的障壁に対して地域社会と連携して社会環境に働きかける地域支援、さらには政策形成までソーシャルワーク専門職としての役割が求められている。幅広い知識と実践力が必要であり、座学や演習で知識や技術を涵養するだけでなく、地域社会の動きや課題を肌で感じ、体験的に学びスキルを獲得することが重要である。現場を訪れ、生の声を聴き、体験することで学生は多くを感じ学び成長する。そこで、社会福祉士課程では、正課の実習のみではなく、正課外活動やボランティア活動を通じた、さまざまな地域連携活動に取り組んでいる。本報告では、中でも、継続的に実施している、社会福祉協議会（以下、社協という。）と特定非営利活動法人 岡山 NPO センターとの連携活動について報告する。

①社会福祉協議会との連携

2013 年から継続的に社協との連携活動を実施している。一つ目は、岡山市社協主催「夏のボランティア体験事業」事前研修会・活動調整会議である。4 年生がボランティアスタッフとして活動する（6～7 月にかけて 7 日間程度）。これは、「中学生以上のボランティアに関心のある方に、社会福祉施設や地域のボランティアグループなどでの体験活動の機会を提供」する事業である。職員との事前打ち合わせから準備、当日は司会や学生によるミニ講座を担当する（5 会場で実施）。これからボランティア活動をする中高生たちの関心を深められるよう、自身のボランティア体験や体験からの学びも伝える。

二つ目は、岡山市社協共催（現・岡山ふれあい公社主催）「ふれあいまつり」のブース出展である（2014 年から参加）。福祉関係の団体やボランティアグループが集うイベントで、2,3 年生の合同チームで子ども向けの創作活動のブースを企画運営する（1 日参加）。

これらの活動を通じて、福祉のまちづくりに欠かせない、ボランティア活動や市民活動の推進におけるソーシャルワークの役割について体験的に学ぶとともに、多様な世代や障害のある方との交流からコミュニケーションスキルの向上に繋がっている。「さまざまな人たちと関わり、コミュニケーションをとることで、自分たちが成長できる」「失敗したり、チーム内で衝突したり、そういった経験が成長につながる」学生たちの感想である。

三つ目は、平成 30 年 7 月豪雨災害にかかわる連携活動である。発災直後の 2018 年 7 月 10 日から 7 月 30 日まで岡山市災害ボランティアセンター本部（岡山市社協）で社会福祉士課程の学生を中心にボランティアスタッフとして毎日活動し、夏休み以降は、倉敷市災害ボランティアセンター本部（倉敷

市社協)で活動した(8月7日～1月5日)。また、2019年には真備町の小学生を対象とした「夏休み宿題大作戦」(7～8月の間の全7日間)を企画・実施し(倉敷市社協「地域の交流の場・新たな仕組みづくり等活動助成事業」、その後も仮設住宅でのサロン活動など、できる活動を続けている。災害時における福祉支援や減災のまちづくりについて学び考える機会になっている。

その他、社協主催の研修会に地域住民や専門職と一緒に参加してグループワーク等で学んだり、卒業論文で各種調査にご協力いただいたりするなど、日常的に連携している。



夏ボラ事前研修会(2019年7月25日)



夏ボラ事前研修会ミニ講座(2019年7月25日)



ふれあいまつりのブース(2019年10月27日)



宿題大作戦(2019年7月21日)

②特定非営利活動法人 岡山NPOセンターとの連携

岡山NPOセンターとの連携活動も2013年から継続的に実施している。社会経済状況の変化によって地域生活課題は複合化・複雑化し、8050問題やひきこもり、不登校、生活困窮など、既存の制度やサービスでは対応しきれない課題が顕在化している。そこで、主に制度事業について正課の実習で理解を深めた3年生が、改めて地域社会の問題について俯瞰し、制度の枠組みを超えた支援の必要性やあり方について学び考える機会を設定している。地域生活課題について創造的な活動をしているNPO法人等の団体にインタビューし(コロナ前は活動にも参加)、学び考えたことを発信する取り組みである(ゆうあいセンターWEBマガジンおよび活動報告書「Volo!!」の発行)。2021年度は、アウトプットの方法として福祉を学ぶ岡山後楽館高等学校の学生と交流する取り組みに挑戦した。また、取り組んだ内容について岡山大学、岡山県立大学の学生との三大学合同発表会(岡山NPOセンター主催)で報告した。学生たちの感想には、「福祉実践の幅広さ、やりがい、多角的な視点や連携の重要性について学ぶことができた」「交流することで反応が得られやりがいに繋がった」「自分たちの学びや考えを高校

生や他大学の学生に伝えることの難しさを経験することで、ソーシャルワーカーに必要な、聴く、伝える、表現する力が体得できた」などがあった。これまでの視野を広げる学びから、確実にスキルの向上に繋がったと考える。



後楽館高校での発表
(2022年1月27日)



後楽館高校での交流会
(2022年1月27日)

コロナ禍で大きなイベントは中止になっているが、今後も地域の皆さんや関係機関にご協力いただきながら地域連携活動に取り組み、地域社会に求められるソーシャルワーク専門職の養成に取り組んでいきたい。

令和3年度「未来につなげる！晴れの国おかやまのこさずたべよう事業」報告

食品栄養学科 小川 真紀子

今年度小川ゼミが岡山県に応募し採択された「令和3年度未来につなげる！晴れの国おかやまのこさずたべよう事業」では、早島小学校5学年を対象に、食品ロス削減意識醸成のため食品ロスや食べ残しの現状を伝え、その削減に向けた実践できる取り組みについて出前授業を行った。学童が大学生との参加型体験学習を通して、食品ロスや食べ残し防止策を考え、日本型食事の伝承、地産地消、食料自給率の向上、食品ロスや食べ残しのない環境にも優しいSDGsの取り組みについて、考えるきっかけをもつことを目的とした。

具体的な活動内容は、以下の通りである。

■第1回目残食調査、フードバンクの取り組みの取材

日 時：2021年10月19日 場所：早島小学校、株式会社ハローズ（早島町、本部）

参加者：早島小学校5年生、他6名（本学学生4名）

■第2回目残食調査

日 時：2021年10月26日 場所：早島小学校

参加者：早島小学校5年生、他7名（本学学生6名）

■出前授業の実施、事後アンケート調査

日 時：2021年10月19日 場所：早島小学校

参加者：早島小学校5年生と教職員、他11名（本学学生8名）

■3か月後アンケート調査

日 時：2022年2月2日 グーグルフォームでQRコードを送り、入力送信にて実施

アンケート結果は集計し小学校に結果を報告

1回目の残食調査では、洋食の人気メニューでほぼ完食に近かった。2回目の残食調査は、和食メニューで若干野菜が残ったがほぼ完食に近かった。対象の5年生は日頃から残食が少なく、この結果は、2021年11月5日実施の出前授業の中で発表した。また残食調査実施の様子は、大学ホームページの食品栄養学科ブログに掲載した。

さらに、ゼミ生がフィールドワークとして早島町のフードバンクの取り組みについて、ハローズ岡山本部に行き取材を行った。面会者は商品ライン本部商品管理室長の太田光一様で、各店舗の近隣施設が直接店舗に引き取りに来るハローズモデルの具体的な説明を聞き、学生の質疑応答に答えて頂いた。このフードバンクの内容は、早島町内の事業所で行われている取り組み題材のよい実例として紹介できた。

出前授業の媒体はパワーポイント、クイズ、お弁当の設計図を描く、お弁当箱に料理を詰める、といった参加型の内容で、学童が食品ロス削減というテーマに興味を持ち、自分の意見を披露したり、楽しみながら積極的に参加していた様子であった。ゼミ学生たちも、臨地実習中の多忙な時期に出前授業準備に追われたがその苦勞が報われ、小学生に対し実際に食育を行うという非常に良い経験ができたと感じる。

今回の出前授業を通して、食品ロスや食べ残し防止策を考え、日本型食事の伝承、地産地消、食料自給率の向上、食品ロスや食べ残しのない環境にも優しいSDGsの取り組みを、学童と大学生双方ができることを実践するきっかけとなれば幸いである。



岡山県生涯学習センター「若者発！まちプロ」(センター直轄)

地域連携・SDGs 推進センター長／現代社会学科 濱西 栄司

岡山県の生涯学習センター主催のまちづくり人材育成事業について、2021 年度も学生へ広報を行った。学部学科をこえて積極的な応募があった。活動については以下の参加者報告文をご覧ください。

まちプロ研修レポート

現代社会学科 4 年 (2022 年 2 月段階) 白神 麻衣

研修は 3 回にわたって行われた。1 回目の研修では参加者の自己紹介や研修先の活動について知り、参加先を決定した。それぞれの団体の方からお話を伺い、岡山県内で地域のために活動する方が沢山いることを改めて実感した。私自身岡山生まれ岡山育ちであるが、地域づくりに関する活動が数多く行われている現状についてはあまり知らなかった。まずは自分の身の回りに興味を持ち、知ろうとする気持ちが大事であると感じた。私は岡山県地域おこし協力隊ネットワーク（以下 OEN）の活動に興味を持った。OEN では他の団体とは異なる視点から、地域づくりを知ることが出来ると思ったからである。組織概要や活動の様子について知る中で、実際に地域に入らなくとも隊員や役所の方などの現場の声を聞くことで、今後の「地域おこし」全体を良くしていくことのできるとてもやりがいのある活動だとわかった。最終的にはコロナで実地研修はなくなってしまったが、1 回目の研修当時は OEN の活動を間近で感じられることをとても楽しみにしていた。

また今回は研修に参加させて頂くことはなかったが、個人的にタワラデザインワークスの宮嶋さんが印象に残った。就職し、働きながら休日に地域づくりに携わっている方ならではの活動やそれに対する思いが気になった。自らの時間を削ってまで惹かれるものは何なのか、それとも使命感で続けているのか、仕事とは別に地域づくりに取り組む人達の姿勢に興味を持った。

2 回目の研修では、ハブさんという方に講師として指導して頂いた。プログラムとしては、ハブさんによる講演や、実際に私達が隊員として地域に入ると仮定した場合、どのような地域づくりに取り組みたいか班で話し合い、時間内に意見をまとめて発表するというものであった。

講演については、ハブさんの「正義よりも対話が必要」という言葉が印象的だった。地域おこし協力隊の隊員という移住者の立場であればなおさら、自分の理想通りに活動を進めるのではなく地域住民の方としっかりコミュニケーションを取っていかなければその地域が幸せにはなれないということがわかった。私も人と上手くコミュニケーションを取るために自分の意見の伝え方を工夫していこうと思った。これは地域おこしに限らず、人と関わりながら生きていく上で何事にも当てはまる大切なことだと感じた。社会人としてこれから働く上でも忘れないようにしようと思う。

また、同じ班のメンバーと意見を共有して 1 つにまとめる作業も経験し、難しさと楽しさを感じた。私の班はメンバーが 3 人おり、それぞれの意見の良い部分を活かしたまま 1 つの意見に絞るのは難しかったが、最終的には良い発表にすることができたと思う。他の班の発表についても、若者流出を防ぐために地元の仕事を紹介するという活動や、外国人との交流のために食事会を設けるなど、私には思いつかないような面白い意見が発表され、大変勉強になった。

3 回目の研修は実地研修が中止になった影響で、急遽開かれた交流会のようなものだった。この会で何か学ぶ、というよりかはこの日の出会いから今後の地域おこしに役立てば、というものであった。

まず、それぞれの研修先で意見交換をした。OEN の研修グループで代表の藤井さんと学生の山



田さんと初めて対面で意見交換ができ、地域づくりに関する理解をより深めることができた。藤井さんの半生や山田さんの地域づくりに対する考え方など、人それぞれの意見や価値観を知り、大変楽しい時間であった。私は岡山で生まれ育ったが、地域おこしに積極的ではなかったので自分の知らない世界を知ることができたように感じた。

次に他の研修先の方や、前回の講師だったハブさんからお話を伺った。ハブさん・木藤さん・藤井さんとの座談会では、皆さんならではの視点や考え方、実際に地域に入って活動したからこそわかる現場のリアルなお話を直接お伺いすることができてとても有意義な時間であった。話を伺う中で、それぞれの地域や自治体によって特徴、カラーがあり、同じ地域おこし協力隊という枠組みの中でも多種多様で活動に正解はない、と感じた。地域づくりに携わる一人ひとりの価値観が異なるため、全員が納得するのは難しいけれど、地域が笑顔になれること、隊員自身が楽しめる活動を少しずつ着実に積み上げていくことが大切であると学んだ。私はこのまちプロ研修に卒業論文執筆という目的で参加した。そしてありがたいことにこの研修でできた繋がりを論文執筆に活かすこともできた。しかし、論文執筆はもちろん「おもしろい大人」の皆様との出会いから多くのことを吸収し、自分自身を成長させることもできたのではないかと考える。

このように今回私が参加させて頂いたまちプロ研修では、地域おこしに取り組む方々から隊員になった経緯や実際の活動の様子を伺ったり、同世代の地域おこしに興味を持つ学生の皆さんの考えや今後の展望などを知ることができた。実際に地域おこしに取り組み、地域の経済を活性化させる、といった数字に表れるような活動はできなかったが、今まで「地域づくり」や「地域おこし」について全く知らず興味も持たずに過ごしてきた私が、少しでも「地域を良くするために日々奮闘するおもしろい大人」の存在を知ることができたことは地域おこしの第一歩なのではないかと考える。私のように地域おこしに無関心な人間が、まずは自分たちの地元や地域ならではの魅力や抱えている問題について目を向けること、他人事ではなく自分事として捉えること、それこそが地域おこしの原点だと感じた。

まちプロ感想レポート

現代社会学科 3年（2022年2月段階） 山田 花音

私は地域づくりというテーマに大きな関心を持っており、そのテーマに対する自分自身の理解をより深めるために「若者発！まちプロ」といった県内の大学生を対象とした地域づくり実践研修に参加することを決めました。それは地域づくりの最前線で動いている方達からさまざまなことを学べる良い機会であり、私にとって非常に有意義な時間となったと感じています。

プロジェクト全体を通しての主な流れとしては、5つの受け入れ団体それぞれの紹介を受けて希望団体を選択したのち、アイスブレイクのためのワークショップを行い、3日間の現地研修に挑み、現地研修でのフィードバックを各団体によっておこなうというものだったのですが、新型コロナウイルスの影響により現地研修がすべて中止になってしまいました。それを受け、主催者（岡山県生涯学習センター）の方々が代替案として、各団体とのテーマトークや交流をおこなうための機会を対面形式にて調整してくださり、現地研修には行けなかったものの現場で動いている方々の貴重なお話を伺うことができました。

そこでは、地域づくりの現場で実際に生じる課題であったり、地域づくりのために忘れてはならない思いであったり、経験者にしか分からない掘り下げたお話をたくさん知ることができ、非常に多くの気づきや学びを得られたように思います。なかでも、「誰からも期待されない地域に未来はない」というお話は強く印象に残っており、「じゃあ期待される地域って一体どういうものだろう？」と考えさせられる契機となりました。

新型コロナウイルスの影響で予定通りにプロジェクトが進行しない部分もありましたが、それでも今回得られたことは本当に貴重なものばかりでした。地域づくりの意義、そして真の価値というものについて視野を広げ、自分なりに理解したり考えたりすることができ、地域づくりにおける理解をより深められたのではないかと思います。また団体の方との繋がりももつことができ、心強いネットワークを得られました。勇気を出して今回のプロジェクトに参加して良かったです。今後も同様のプロジェクトがあれば、ぜひ参加したいと思っています。



Ⅲ. SDGs 推進活動の一覧と報告

1. SDGs 推進活動実績一覧¹

(1) 「SDGs 理解」推進に関する活動実績一覧

1) 「SDGs」理解に関する寄稿・発表・説明・取材等)

年 月 日	内 容
2021(令和3)年4月27日	岡山市男女共同参画専門委員会に出席。
2021(令和3)年5月12日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームのワークショップに出席。
2021(令和3)年5月24日	岡山市男女共同参画業者表彰式に出席。
2021(令和3)年5月24日	本学の SDGs の取り組み、国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム紹介ページを含む東洋経済 MOOK 本の出版。【資料編に掲載】
2021(令和3)年5月29日	OHK「ど昼はドドット」出演。
2021(令和3)年6月18日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの第2回ワークショップに出席。
2021(令和3)年7月15日	岡山市男女共同参画専門委員会に出席。
2021(令和3)年7月16日	岡山県男女共同参画推進センター運営委員会に出席。
2021(令和3)年7月19日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームのカリキュラム分科会会議に出席。
2021(令和3)年7月27日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの2021年度成果物の完成。【資料編に掲載】
2021(令和3)年7月28日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームのカリキュラム分科会に出席。
2021(令和3)年8月19日	岡山市男女共同参画専門委員会に出席。
2021(令和3)年9月7日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム全体会に出席。
2021(令和3)年10月3日	国際塾において講演。
2021(令和3)年10月5日	岡山市男女共同参画専門委員会に出席。
2021(令和3)年10月8日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム分科会に出席。
2021(令和3)年10月22日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの授業担当者会議に出席。
2021(令和3)年11月8日	岡山市男女共同参画専門委員会に出席。
2021(令和3)年11月10日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム全体会に出席。
2021(令和3)年11月29日	岡山市主催企業 SDGs 講座で講演。【詳細は活動報告に掲載】
2021(令和3)年12月7日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの授業担当者会議に出席。
2021(令和3)年12月14日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム分科会に出席。
2021(令和3)年12月20日	岡山県のイノベーションスクール担当者への来学対応。
2021(令和3)年12月20日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの授業構築パートナーのお茶の水女子大学担当者との打ち合わせに出席。

¹「地域連携」の実績としてすでに報告されているものは除いている。

2021(令和3)年10月22日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの授業担当者会議に出席。
2021(令和3)年12月20日	『家庭の友』1月号に本学SDGsのとりくみについて寄稿。【資料編に掲載】
2022(令和4)年1月19日	ボランティアプラットフォームとSDGs 高大連携サイトについてオンライン会議。
2022(令和4)年1月21日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム全体会に出席。
2022(令和4)年1月21日	岡山市男女共同参画専門委員会に出席。
2022(令和4)年2月2日	男女共同参画専門委副委員長として岡山市長に答申。
2022(令和4)年2月24日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの授業担当者会議に出席。
2022(令和4)年2月24日	JA おかやま成果報告会に出席。
2022(令和4)年3月10日	岡山県ウィズセンター運営委員会に出席。
2022(令和4)年3月16日	「みんなでつくる財団おかやま」審査会に出席。
2022(令和4)年3月30日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの年度末全体会に登壇。

2) ナミュール・ノートルダム修道女会の「SDGs 理解」に関する紹介等の活動

年 月 日	内 容
2021(令和2)年8月28日、 2022(令和3)年1月4日、 2月19日、3月13日・20日	一昨年・昨年度に引き続き、ナミュール・ノートルダム修道女会国際連合オフィス・ブログ(SND at UN)のSDGs関連記事の日本語訳作成(英語英文学科OG、東京大学大学院生による下訳の上で、左記年月日に約2時間、センター長と協議・添削)。【資料編に掲載】

(2) SDGs の達成に関する活動実績一覧

1) SDGs 推進機会の在学生への提供：国連大学 SDG 大学連携プラットフォームを介して

年 月 日	内 容
2021(令和3)年7月21日	国連大学リーダーシッププログラムの参加者募集について、学生にNサポで紹介。
2021(令和3)年8月27日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム参加大学への、文科省ユース世代による「次世代ユネスコ国内委員会(仮称)」のメンバー募集について学生にNサポで紹介。
2021(令和3)年10月6日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム・国連大学 SDG 企業戦略フォーラム共催のイベント参加について、学生にNサポで紹介。
2022(令和4)年1月28日	国連大学グローバルセミナーの推薦者2名の募集について、学生にNサポで紹介。2月15日決定。【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年2月21日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム年度末セッション(3月30日)の参加方法について、学生にNサポで紹介。

2) SDGs 推進機会の在学生への提供：その他

年 月 日	内 容
2021(令和3)年7月6日	山陽新聞 SDGs シンポジウム及び事前ワークショップについて、学生に N サポで紹介。
2021(令和3)年7月9日	岡山 NPO センター主催「よる会」の受講生募集について、学生に N サポで紹介。
2021(令和3)年7月13日	SDGs ネットワークおかやま主催の「SDGs まちなか探検隊」参加者募集について、学生に N サポで紹介。
2021(令和3)年8月18日	山陽新聞 SDGs シンポジウム及び事前ワークショップについて、学生に N サポで紹介。
2021(令和3)年8月20日	岡山市男女共同参画センター主催「岡山市第 6 次さんかくプラン」のイベントについて学生に N サポで紹介。
2021(令和3)年9月28日	岡山市主催「さんかくウィーク 2022」実行委員募集について、学生に N サポで紹介。
2021(令和3)年10月10日	岡山市主催の女性活躍推進シンポジウム「成長戦略としての女性活躍推進」の参加者募集について、学生に N サポで紹介。
2021(令和3)年10月10日	岡山市男女共同参画センター（通称「さんかく岡山」）のサイトについて学生に紹介。
2021(令和3)年11月6日	岡山 NPO センター主催「KOTOMO ことも基金シンポジウム」の参加者募集について、学生に N サポで紹介。
2021(令和3)年11月7日	アースデイ岡山（北長瀬）への参加
2021(令和3)年12月1日	岡山市女性が輝くまちづくり推進課「さんかくプラン」の素案に対するパブリックコメント協力依頼について、学生に N サポで紹介。
2022(令和4)年1月26日	公益財団法人五井平和財団主催「ローカル SDGs キャンパス・ミーティング」参加者募集について、学生に N サポで紹介。

2. SDGs 推進活動報告（一部）

（1）国連大学グローバルセミナー

UNU グローバルセミナーを終えて

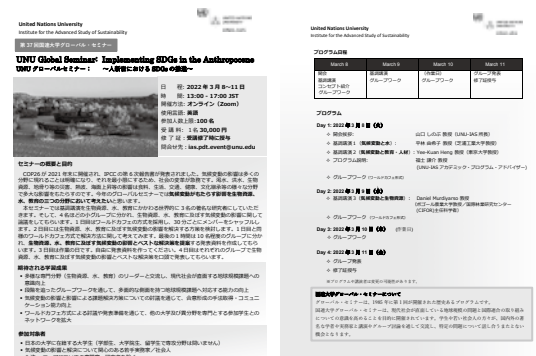
英語英文学科 2年 友田 なつみ

第37回国連大学グローバルセミナーに参加しました。今回のセミナーは「人新世におけるSDGsの達成への挑戦」というトピックで、気候変動がもたらす影響を生物資源、水、教育の3つの分野において考えました。

1日目から2日目にかけて、上記の3つの分野に関わる研究者による講演を聞き、ワールドカフェ方式での議論を行いました。いかに気候変動が生物資源、水、教育の分野において影響を与えているのか、専門的な視点から気候変動の持つ影響力を知ることができました。グローバルカフェでは4人ほどの小グループで議論を行いましたが、様々な国籍を持つ方がセミナーに参加していたので、とても国際色豊かな印象を持ちました。コロナ禍で国際交流が実現する機会が少なかったこともあり、今回のオンラインセミナーは大変貴重なものでした。セミナー参加者の英語の流暢さに圧倒されながらも、大学での気候変動やSDGsに関する学び、そして模擬国連で得た学びを活かして、議論に参加することができました。議論を通して、各国の現状や直面している問題について知り、気候変動に対する理解が深まった上に、セミナー参加者の意識の高さに感化され良い刺激を受けました。また「SDGsの達成のために何か心掛けていること」について話し合ったときに、国籍は異なるが心掛けていることは似たようなことであったため、親近感を感じました。それと同時に、SDGsの達成に向けての一体感を感じました。

3日目は10人のグループワークを行い、4日目のプレゼンテーションに向けての準備を進めました。私のグループは「日本の中等教育における持続可能な開発のための教育を含む気候変動教育のカリキュラムデザイン」について議論しました。正直に言うと、議論の内容を追って理解することで精一杯でした。しかし、自分の意見を伝えずに後悔することだけは決してしたくなかったので、伝えたいと思ったことは迷わず発言しました。それぞれの担当を決めて、個人作業に移った後も分からないことがあれば助けを求め合い、コミュニケーションをとりながら円滑に準備を進めました。SDGsが目指す「誰一人取り残さない」ということを体現したグループワークだったと思います。

言語の壁にぶつかりながらも、一生懸命に4日間を過ごし、新たに学んだことがあります。それは、SDGsの達成に不可欠である世界的な協力とは何かを実感したことです。その何かを言葉で表現することは難しいですが、「協力することの大切さを言葉では理解していたものの、その本質を理解するまでに至っていなかった」というような気づきを得ました。そして、SDGsの達成に向けて意識の向上や行動の改革を行ったとしても、世界的な規模での問題意識を持っていなければ、真のSDGsの達成は不可能だということにも気付かされました。まさに“Think globally, Act locally.”という言葉の通りであると思います。



第 37 回国連大学グローバルセミナー 体験談

英語英文学科 2 年 鳴滝 悠花

3 月 8 ～ 11 日にかけて、第 37 回国連大学グローバルセミナーがオンライン形式で開催されました。今年のテーマは「人新世における SDGs の達成への挑戦」で、特に「気候変動と生物資源、水、教育」の関係に焦点を当てたセミナーでした。

1, 2 日目はテーマに関する基調講演とワールドカフェが行われました。1 日目は最初に 2 人のスピーカーの講演がありました。気候変動に関する政府間パネルについての話では、人類の活動が気候変動に影響を及ぼし水不足や洪水、熱帯低気圧などを増加させるという危機的状況を自分事として理解しました。その後「気候変動が生物資源、水、教育に与える影響は何か」というテーマで、ブレイクアウトルームに分かれてワールドカフェ形式の議論を行いました。教育は意識の向上ができたり学校などの施設が気候変動によって破壊されたりと様々な影響を受けていることを知りました。2 日目の湿地についての講演では、湿地やマングローブ林が二酸化炭素を貯留し豊かな生態系を育む役割を担っているため、それらを保全し復活させることの重要性を学びました。2 日目のワールドカフェは「SDGs と生物資源、水、教育における気候変動の影響の関係」というテーマでした。

3 日目からは、グループに分かれて「日本の中等教育における持続可能な開発のための教育を含む気候変動教育のカリキュラムデザイン」、「小島嶼開発途上国における気候変動と持続可能な開発の事例研究」という 2 つから好きな主題を選んでプレゼンテーションを作成しました。私たちのグループには母国がソロモン諸島である参加者がいたため事例研究を行いました。具体的にはその国の生物資源、水、教育が気候変動によってどのような影響を受けているか、どのような施策を行っているかをリサーチしました。4 日目はプレゼンの発表で、私はカリキュラムデザインの発表が興味深かったです。短時間のグループワークで、各週の到達目標を定めて生物資源、水、教育を網羅した 1 年間や半年のカリキュラムを完成させていることに驚嘆しました。

私は今回このセミナーに参加させていただいたことで自分の英語能力の拙さ、勉強不足であることを痛感しました。私は同年代の英語話者と話すことがほとんど初めてだったため、流暢な英語を聞き取ることに苦戦しました。しかし議論を通して様々な意見を交わすことで気候変動の影響について理解を深めることができました。また議論の中でテーマに関連するニュースや問題、さらに自国の状況などを熟知している人たちとは対照的に自分が浅学であると知りました。これからも継続して気候変動や SDGs を取り巻く状況にアンテナを張り続けます。一方母国がパキスタンやフィリピンである人、大学院生や大学生、環境分野や工学などを専攻している人のように多種多様な人たちと交流したことで、「パートナーシップで目標を達成しよう (SDG 17)」を体感し、地球規模の問題は国際的な協力をなしに解決できないことを再認識しました。改めて国連大学グローバルセミナーに参加する機会を与えてくださったことに感謝します。セミナーから得た知識や経験を基に日々研鑽を積み、地球の将来を担うユース世代として行動を起こしていきたいと思います。

(2) 2021 年模擬国連活動報告

1) Model United Nations (MUN)

英語英文学科 2 年 鳴滝 悠花

模擬国連とは、各国の大使になりきった学生が 17 の持続可能な開発目標 (SDGs) に関連する世界規模の問題について、実際の国際連合を模倣し英語を用いて議論・交渉を行う活動です。ノートルダム清心女子大学は 2018 年に筑波で行われた模擬国連大会 (TEMUN) に初出場しました。2019 年には神戸で行われた日本大学英語模擬国連大会 (JUEMUN)、同年 11 月にはドイツのエアフルトで行われた模擬国連世界大会 (NMUN) にも出場しました。模擬国連の活動内容は会議前の準備、会議本番、振り返りの 3 段階に分けられます。準備の段階では自身の担当国・その周辺地域・議題に関する情報を収集します。入念なリサーチが議論での活躍に直結します。そして会議当日、英語のみでの議論では伝えたいことを正確に伝えられないもどかしさや大使としての責任感、緊張感は非常に大きいですが、その分、交渉の末に自分の考えた条項 (clause) が採択される喜びは非常に大きいです。会議後の振り返りでは、自分たちが完成させた決議案をもう 1 度見直して改善点を見つけていきます。



模擬国連は教育プログラムとして「質の高い教育をみんなに (SDG 4)」、「ジェンダー平等を実現しよう (SDG 5)」の達成に寄与しています。学生が世界の現状や問題について深く学び解決策を考えるという趣旨は、SDG 4 に大きく関わっているといえるでしょう。実際私は JUEMUN 2021 にアフリカ大陸東部に位置するエチオピアの大使として参加し、様々な力を鍛えることができました。最初は担当国の地理的位置も分からない状態でしたが、リサーチを重ねることで議題に関連した担当国の抱える問題を深く知ることができました。当日までの授業では積極的に議論に参加する力や、自分の意見を述べる際に根拠となる情報を収集する力を身につけました。交渉の際、意見に根拠があると格段に他国の大使を説得しやすくなります。このように、信頼できる情報源から主張の裏付けとなる情報を入手するという、実生活においても必要となる能力を鍛えることができました。

次に、SDG 5 についてです。156 か国中 120 位という 2021 年の日本のジェンダーギャップ指数は先進国の中でも最低レベルでした。特に「政治」と「経済」における順位が低く、依然として女性の管理職の割合は少ないです。女子大学である本学はこの現状を改善し、将来リーダー的地位に就く女性が増えることを目指してリーダーシップ能力を高めることを重視しています。模擬国連において、学生は性別にかかわらず議長などの役職につきます。OKAMUN 2021 でもホスト校である本学から多くの学生がリーダー役に挑戦しました。私も初めて議論進行係の 1 人として参加しました。進行係は大使が発言できるように促し会議を円滑に進める役割を担っています。最初は議論の進め方や場の仕切り方がわからず苦戦しましたが、先輩方や先生方からのアドバイスのおかげで当日は役割を果たすことができました。もちろん改善点もあります。その中の 1 つが、時間不足で十分に話し合いの時間を設けられなかったことです。タイムマネジメントを怠ったことが原因だと考えています。次回の JUEMUN 2022 でも進行係として参加するので、今回の経験から得た改善点を基にしてさらにリーダーシップ能力を磨いていきます。

2) Japan University English Model United Nations (JUEMUN)

英語英文学科 3年 久米井 万実

現在世界中で様々な模擬国連活動が行われており、日本にも多くの模擬国連大会が存在します。中でも大学生を対象とし、会議の準備から本番の運営まですべてを学生主体で行う英語の模擬国連大会が日本大学英語模擬国連大会（JUEMUN）です。この大会は2010年に始まって以来、毎年日本国内だけでなく海外からの参加者も多く迎えて開催されてきました。ノートルダム清心女子大学は2019年からJUEMUNに参加し始め、その後の活動を経て、2021年より神戸市外国語大学と京都外国語大学に続く3校目のJUEMUN開催校となりました。



本学が初めて開催校として参加したJUEMUN 2021は、6月25日から27日にわたる3日間、新型コロナウイルス感染拡大に伴い前年に引き続きオンラインで行われました。ただし上記3校からの代表者である議長らは京都外国語大学に集い、話し合いつつ会議を進めました。本学からも私を含む4人の学生が京都へ赴きました。2021年の議題は「環境の持続性のための適正で強靱な発展」であり、それに付随して「持続可能な開発に向けた適正なインフラストラクチャー改革と産業（SDG 9）」「持続可能な経済に向けた責任ある消費と生産（SDG 12）」「気候変動とその影響への緊急対策（SDG 13）」という3つの観点から149名の大使が議論しました。私は1つ目のSDG 9をテーマとした会議において議長を務めました。

議長としての仕事は、議題の基礎知識を詰め込んだBackground Guideの作成から始まり、議論進行役を担う大使へのトレーニングや、後輩たちが大使として提出するPosition Paperへのアドバイス、そして会議本番の進行やドキュメントの編集などでした。また、議長として議題に関する深い知識を蓄えておく必要があったので、本番当日まで絶えずリサーチを行いました。例えば「インフラ」「ICT」「中小企業」「レジリエンス」といった、知っているようで正確には理解できていない言葉は定義から確認する必要がありました。模擬国連においてリサーチは活動の大半を占める必要不可欠なものです。このリサーチを通して何度も自分自身の知識の乏しさと見えていた世界の狭さを痛感させられると同時に、知らないことを知ろうとすることの大切さを再確認します。会議における大使の議論では、先進国・発展途上国・後発開発途上国・小島嶼開発途上国、それぞれの立場からの思いを耳にしました。日本は比較的質の高いインフラが整った国です。会議参加者の大半がその日本に住んでいながらも、他国の状況を調べて各々ができる限りの思いを馳せていました。世界は広く世界で起きていることすべてを把握することは不可能ですが、模擬国連は自分の見える世界を少しでも広げ、様々な問題を自分事として捉えるきっかけを与えてくれると改めて実感しました。模擬国連によって、世界の様々な問題への関心を深める若者、さらにはSDGsを達成するために自分には何ができるのかを考えて行動に移す若者がより一層増えていくことを願っています。

いよいよJUEMUN 2022は本学ホストによる2019以来2年ぶりの対面開催です。「世界遺産を将来世代に確実に引き継ぐ」という議題に、自然遺産・文化遺産・無形遺産の3つの観点から切り込みます。模擬国連というすばらしい活動が後輩によって引き継がれていくよう、私にとって最後のJUEMUNに

全力で取り組みたいと思います。最後に、この活動に参加し始めてから丸二年間、立ち止まることなく成長し続ける機会を与えてくださり、背中を押し続けてくださった先生方や、私たちの代へ活動を引き継いでくださった先輩方に心より感謝申し上げます。

3) Okayama Model United Nations (OKAMUN)

英語英文学科 1年 那須 千花

岡山模擬国連大会（OKAMUN）は、例年秋から冬にノートルダム清心女子大学が主催する模擬国連大会です。新型コロナウイルスの影響による既存の模擬国連大会の中止を受け、2020年に創始されました。OKAMUNでは学生同士が会議で質の高いコミュニケーションをとり、協働することに重きが置かれています。模擬国連リーダー育成の場としても、OKAMUNは本学の模擬国連活動の発展に大きな役割を担ってきました。



第2回目のOKAMUNとなるOKAMUN 2021は昨年12月11日、12日の2日間にわたり、感染症対策徹底のもと対面形式で開催されました。本学が模擬国連大会の会場になるのは初めてのことで、学生にとって対面開催の模擬国連への参加は2年ぶりでした。岡山大学と神戸学院大学からの学生も合わせ、約40名により行われました。各国の大使は「世界自然遺産の保護」という大きなテーマに沿ったAからDの4つの議題ごとで委員会に分かれ、決議案を作成しました。委員会Aの議題「危機にさらされた世界自然遺産の保護」は「海の豊かさを守ろう（SDG 14）」、「陸の豊かさを守ろう（SDG 15）」に直結します。例えば、生物多様性を守るための緩衝地帯の設置、オーバーツーリズムによる影響の緩和などが決議されました。委員会Bの議題「世界自然遺産の完全性の維持」も、世界自然遺産のある地域の水質保全や自然災害の影響を受けた動物の生息地の保全などの観点からSDG 14とSDG 15に直結しているといえます。委員会Cは「気候変動の緩和と適応」という議題が「気候変動に具体的な対策を（SDG 13）」そのものでしょう。決議案としては、具体的な数値を示した各国への温室効果ガス排出量削減要請、環境負荷を軽減する産業を労働市場に取り入れた雇用促進などが提案されました。委員会Dの「過小評価地域からの自然世界遺産の包含の促進」という議題は、「人や国の不平等をなくそう（SDG 10）」に関連していました。大使は世界自然遺産登録数の地域ごとの不均一を是正するための教育や財政について議論したり、デジタルライブラリーによる広報活動や過小評価地域のパートナーシップ協定などを検討したりしていました。上記のようにSDGsの項目が議題に関する限定的な内容だけでなく、多岐にわたり決議案にちりばめられています。

OKAMUN 2021は、筆者である私にとって初めて参加する模擬国連でした。高校生の頃に模擬国連を知った私の進路決定において、本学の模擬国連活動は最も重要な決め手の1つとなりました。高校生だった私は、本学の模擬国連大会の華やかな成功はもとより、活動全体を通しての学生の努力の過程に強く感銘を受けました。模擬国連の一連のプロセスにおける学生の主体性は、今となっても憧れの大学生像そのものです。世界の事柄を担当国の主張として再構築する理解力・論理的思考力・発信力を身につけたいという思いもありました。実際にOKAMUN 2021に参加してみて、ひと際志の高

い友人や先輩方に囲まれた環境の中で自己成長の可能性を感じるとともに、世界に対する「無知の知」を実感するなど様々な経験をしました。大使たちは互いに高めあいながら次回の大会、JUEMUN 2022に向けた準備を進めています。OKAMUN 2021はその先駆けとなりました。準備段階から学生同士が協働していく中で、手厚く暖かく教えてくださる先輩方に何度も救われましたし、その姿に多くの刺激を得ました。また、模擬国連へと導き信頼し続けてくださっている先生方をはじめ、私の挑戦を支えてくださっている方々へ感謝が尽きません。今日まで模擬国連を創り上げ、継承してきてくださっている先輩方のあとに続くことが出来るよう励み続けたいです。



(3) 岡山市主催中小企業向け SDGs 講演

地域連携・SDGs 推進センター長／現代社会学科 濱西 栄司

岡山市が2021年度より新たに企画した中小企業向けSDGs講座(11月29日)において、筆者が「SDGsの基本理解と今後の展望」について講演を行った。県内企業のSDGs担当が会場およびオンラインで参加した。以下に報告レジュメとチラシを掲載する。



令和3年度 企業のSDGsと社会貢献活動基礎講座

SDGsの基本的な理解、2030年以降の展開、企業の社会貢献活動の取組事例について解説します。これからSDGsに取り組みたい、基本的な話を聞きたいなど、関心のある企業のご担当者様は是非ご参加ください。

セミナー内容

第1部 SDGsの基本理解と今後の展望

SDGsの基本的な考え方、諸外国の取組、「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」の取組、2030年以降の動き、学生への教育内容について解説

講師：濱西 栄司准教授（ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科）
京都大学大学院博士後期課程研究指導認定退学。博士（文学）。専門は社会学（社会集団・組織論）。最近ではスマートフォンのビッグデータを用いて人の動きのメカニズムを研究している。地域連携・SDGs推進センター長、国連大学SDG大学連携プラットフォームの実務を担当し、国連や全国の大学とSDGsの教育、2030年以降の取組を協議している。



第2部 地域に根付いた社会貢献活動

企業の社会貢献活動が地域社会の発展に貢献できること＝SDGsの達成に寄与すること、社員のスキルやモチベーションの向上に繋がることについて、持続できる活動始めるコツを身近で取り組みやすい事例をもとに解説。

講師：深谷 信介教授（ノートルダム清心女子大学人間生活学部人間生活学科）
慶應義塾大学文学部人間関係学科卒、東京大学大学院工学系研究科修了。メーカー・シンクタンク・外資系エージェンシー・広告会社などを経て現職。マーケティング・デザイン・クリエイティブを手口としつつ、くらしまることと全分野にわたる、超社会的・リベラルアーツ実践/研究を行う。

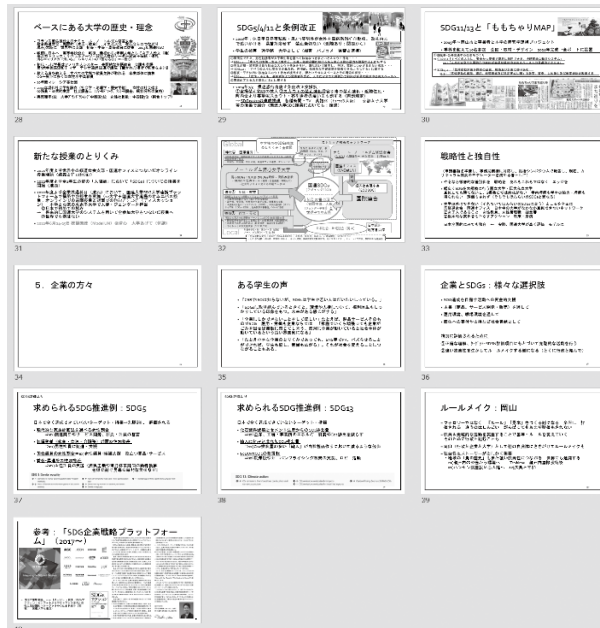


開催日時：令和3年11月29日（月）13時30分～15時30分
会場：岡山市勤労者福祉センター5階体育集会室（岡山市北区春日町5-6）
対象：岡山市内企業
定員：30社
参加費：無料

申込 E-mail、QRコード、FAXで、郵便番号・住所・事業所名・参加者(2名まで)・連絡先を記載のうえ、下記までお申込みください。
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1 岡山市市民協働企画総務課
TEL: 086(803)1061 FAX: 086(803)1872 E-mail: kyoudou@city.okayama.lg.jp
締切：11月22日（月）17時まで



主催：岡山市（市民協働企画総務課・SDGs・ESD推進課）共催：岡山ESD推進協議会 後援：岡山商工会議所 協力：（株）第一エージェンシー



3. 本学のSDGs推進活動に関する資料

(1) 東洋経済ムック本 SDGs 特集

- ・国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの紹介ページ（左下段：本学の取り組み紹介）

国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)

参加大学の実践

SDG-UPは、SDGsの推進に貢献する大学連携プラットフォームであり、各大学がSDGsの推進を目的として行っている様々な取り組みを紹介するプラットフォームである。国連大学は、SDGsの推進に貢献する大学として、SDG-UPに参加している。

東京外国語大学

国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)に参加している大学の一つである。国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)に参加している大学の一つである。

ノートルダム清心女子大学

国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)に参加している大学の一つである。国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)に参加している大学の一つである。

国連大学

高等教育に求められる「相関性」の視点

国連大学は、高等教育に求められる「相関性」の視点から、SDGsの推進に取り組んでいる。国連大学は、高等教育に求められる「相関性」の視点から、SDGsの推進に取り組んでいる。

山口しのぶ

国連大学 学長

東洋経済 ACADEMIC

ノートルダム清心女子大学 特集 国連大学 SDGsに取り組み大学特集 3

アフターコロナの次代へ SDGsの実践で 変革する社会

ノートルダム清心女子大学

本来のSDGs推進と 社会的サステナビリティ教育

2020-2030

- ・ノートルダム清心女子大学の取り組み紹介ページ

本学を創る大学の発展

ノートルダム清心女子大学は、1864年に創立された。創立以来、教育の発展と社会の発展に貢献してきた。本学は、SDGsの推進に取り組んでいる。

ノートルダム清心女子大学

本学のSDGs推進と 社会的サステナビリティ教育

ノートルダム清心女子大学は、SDGsの推進に取り組んでいる。本学は、SDGsの推進に取り組んでいる。

ノートルダム清心女子大学

本来のSDGs推進と 社会的サステナビリティ教育

ノートルダム清心女子大学は、SDGsの推進に取り組んでいる。本学は、SDGsの推進に取り組んでいる。

ノートルダム清心女子大学

本学のSDGs推進と 社会的サステナビリティ教育

ノートルダム清心女子大学

本来のSDGs推進と 社会的サステナビリティ教育

ノートルダム清心女子大学は、SDGsの推進に取り組んでいる。本学は、SDGsの推進に取り組んでいる。

ノートルダム清心女子大学

本学のSDGs推進と 社会的サステナビリティ教育

• 英語版

・国連大学 SDG 大学連携プラットフォームサイト (<https://ias.unu.edu/jp/sdg-up>)

— 51 —

- ・「切迫感伴う SDGs 報道を」『山陽新聞』2021 年 4 月 11 日

[illegible]

- ・「SDGs とノートルダム清心女子大学」『家庭の友』2022 年 1 月号

[illegible][illegible]

(4) ナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィス・ブログ SDGs 記事 (訳)

(本学設立母体のナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィスのブログ記事 (<https://sndatun.wordpress.com/>) から SDGs に関連する記事の翻訳・掲載 (オフィス代表 Sr. Grace Amarachi Ezeonu より了承済)。訳文は引き続き、2019 年度英語英文学科卒業生 (東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム修士課程修了) の吉田岬による (センター長添削済)

教育の国際デー

投稿 2021 年 2 月 9 日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ

コロナウイルスのパンデミックは、世界中で数十億の人々の社会経済的生活を破壊するだけでなく、ほぼすべての国において、延べ 10 億人以上の子どもと若者の教育を中断させています。国際



連合教育科学文化機関 (UNESCO) は、学校や大学の、その他学習施設の閉鎖や、多くの読み書きと生涯学習プログラムが、190 以上の国において、16 億人の生徒の生活に影響を与えていると推定しています。こうした前代未聞の教育の崩壊の結果として、国際連合は、教育の国際デーを祝しています。アントニオ・グテーレス国連事務総長は、2021 年の教育の国際デーの祝賀メッセージの中で、ピーク時には、ほぼすべての学校や教育機関、大学の閉鎖を強いた世界的な COVID-19 のパンデミックに直面している、生徒や教員そして家族のレジリエンスに敬意を表しました。

質の良い教育を受ける権利は人権である、と世界人権宣言 (第 26 条) に記されており、子どもの権利条約においても認められています。2015 年に、国連のすべての加盟国は満場一致で、2030 年までにすべての子どもの質の良い教育を保障する公約を含む 17 の持続可能な開発目標を採択しました。教育は、子どもたちに貧困から抜け出す機会と人生における公平なチャンスを提供します。しかし悲しむべきことに、国連の報告によると、驚くことに世界中で 2 億 6,500 万人の子どもと若者は、未だに学校へ入学、あるいは修了する見込みが無いのです。また、6 億 1,700 万人の子どもと若者が文字を読めず、基本的な計算もできず、サブ・サハラアフリカ地域の女子の 40% が前期中等教育学校を修了し、さらに、約 400 万人の子どもと若い難民が未就学である、とこの報告は示しています。



教育の国際デーの記念に際し、アントニオ・グテーレス国連事務総長は、包括的で平等な質の教育を保障し、すべての人のための生涯学習を促進する、持続可能な開発目標 4 を政府に促進するよう要請しました。

より詳しく：教育の国際デー：<https://bit.ly/2NH8q21>

核兵器の無い世界への道：核兵器禁止条約の発効

投稿 2021 年 2 月 15 日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ

世界中の人々が、正義、平和そして安全を切に願う、歴史上この重大な時期は、祝福すべき重要な節目なのです。核兵器禁止条約は 2021 年 1 月 22 日に発効します。



この条約は、核兵器を全面的に禁止するための、初の法的拘束力を持つ国際協定です。来る、核兵器禁止条約の発効は、以下の内容を暗示しています、核兵器の開発、製造、試験製造、買収、所有あるいは備蓄、譲渡、管理あるいは受領、使用または脅迫的な使用、駐留は現在違法と認められています。

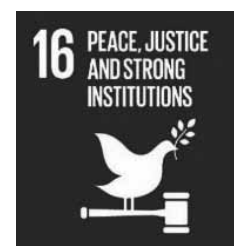
以下は、オークリッジ環境平和連合（Oak Ridge Environmental Peace Alliance）とニュークウォッチ（Nukewatch）、ザ・ニュークリアレジスター（The Nuclear Register）によって作成された、核兵器禁止条約に関するいくつかの事実です。

- 国際連合は、本条約を 2017 年 7 月に 122 カ国によって承認しました。
- 条約の期限によると、発効前に 50 カ国が既に批准（あるいは加盟）しなければいけませんでした。50 カ国目の批准が国連によって預け入れられた後、90 日後に自動的に発効がなされる予定でした。
- 2020 年 11 月 1 日現在、84 カ国がこの条約に調印しています。
- 2020 年 10 月 24 日に、ホンジュラスが、国際連合で 50 番目の批准国となりました。
- 核兵器防止条約は、2021 年 1 月 22 日に発効されます。
- 核兵器を保有する国（米国、ロシア、英国、フランス、中国、イスラエル、インド、パキスタン、北朝鮮）は一カ国も本条約に調印していません。法的には、本条約の用語は調印するまで適用されません。「傘下の国」——核の力に関する同意によって保護されている国々も一切本条約に調印していません。
- 本条約は、核兵器の開発、製造、実験、保有、移転、買収、貯蔵、使用および使用の脅迫、保管、配置および配備を禁止しています。
- 本条約の発効により、核兵器は、国際法において違法となります。
- 発効は、傘下の加盟国、特に国土に米国／NATO の核兵器が配置されている国（ベルギー、ドイツ、オランダ、イタリア、トルコ）や、それらの国々で核兵器が配置され水が管理されていること、及び、それらの国土内の米軍基地に核兵器が配置されていることを容認している国々に、本条約で定められた責任を再考するためのプレッシャーを与えます。
- 核兵器を持つ 5 カ国（米国、英国、フランス、中国、ロシア）は、核兵器不拡散条約（1970 年以降）が（核軍縮交渉を行う義務：外務省）義務付けられており、「誠実に」「早期に」軍縮を達成しなければいけません。核兵器禁止条約は、核兵器禁止条約締結国の軍縮義務が果たされていないことへの非核兵器国の焦りを表しています。
- アメリカ合衆国憲法第 6 章によると、アメリカ合衆国が調印国である国際条約は、「最高法規」であり、州の憲法より優先されます。
- 核兵器禁止条約の発効により、核兵器は地雷やクラスター兵器、化学・生物兵器、毒ガスと同じカテゴリーになります。
- 2020 年 9 月現在で、核兵器国は、13,400 の核兵器を保持しています。

詳細は以下の通りです。ロシア 4,310（うち 1,572 が配置されています。） アメリカ合衆国 3,800（1,750） 中国 320 フランス 290（200） イギリス 195（60） パキスタン 160 インド 150 イスラエル 90 北朝鮮 35

**Hans Kristensen, Matt Korda Federation of American Scientists*

より詳しく：核兵器禁止条約：<https://bit.ly/3qG8AVh>



CSW65：「ジェンダー平等と女性と女児のエンパワメントを達成するための、女性の公共分野への参加と女性に対する暴力の撤廃」

投稿 2021 年 4 月 13 日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ



第 65 回女性の地位委員会(CSW65)が、2021 年 3 月 15 日から 26 日にオンライン上で開催されました。CSW65 の重要なテーマは、ジェンダー平等とすべての女性と女児のエンパワメントを達成するための、女性の公共分野への完全かつ効果的な参加と意思決定、及び女性に対する暴力の撲滅です。

CSW は 1946 年に設立されました。これは、ジェンダー平等と女性のエンパワメントに関する最大の国連年次会合です。この会合は、そこで各国政府がジェンダー平等と女性・女児のエンパワメントの促進に向けて協働するところの、最上位の国連プラットフォームです。CSW は、毎年 3 月に 2 週間ほど、ニューヨークの国連本部において以下の目的のために開かれます——女性の政治、経済、公民、社会、教育分野における権利のグローバルスタンダードを形作るような提案を準備し、また世界のあらゆる場所の女性の生活の現実を記録し、さらに「北京宣言および行動綱領」の実施に関わる進捗と課題を監視、再検討し、そして、国連全体が最高度のジェンダー平等基準を順守し、その諸活動と報告書が女性・ジェンダー分析に細心の配慮をすることを保証するためです。

COVID-19 による制約のために、CSW65 はオンライン上で招集されました。良いニュースといえば、オンライン開催によって、世界のさまざまな地域から多くの人々が、議事に参加することができ、またサイドイベントも主催することができたことです。NGO、SCW ニューヨークによると、CSW65 の会期中、史上最多の 27,000 を超える人々が世界中から参加しました。そして、700 以上のサイドイベントが、全世界の女性の権利とジェンダー平等に関わる団体によって開催されました。非常に多くの有益なイベントがありました。以下のリンクをクリックすると、いくつかのセッションとサイドイベントを見ることができます。

今委員会における重要テーマに関する各セッションでの検討の結果は、全加盟国による交渉の上で、合意された結論、という形をとります。

UN Women（国連女性機関）は、この文書を起草し、事務局担当の加盟国へ提出します。各加盟国はその文章を読み、追加したり、望まない文章を削除したりします。NGO もまた、意見を提供する機会を得られます。



より詳しく：CSW65 から提出された、各国修正前の、合意された結論：<https://bit.ly/3lwISII>

CSW65 の会議とサイドイベントの録画：<https://bit.ly/3ryBVBi>

サイドイベントの詳細情報：<https://bit.ly/39JHNld>

持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム 2021

投稿 2021 年 4 月 29 日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ



持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム（High-level political forum on sustainable development: HLPF）、国連の全加盟国が出席し、あらゆる国における持続可能な開発目標の実施を再検討する年次会合は、COVID-19 に関する規制により、2 年連続（？）オンライン上で招集されます。HLPF2021 は、7 月 6 ～ 15 日に、次のようなテーマで開催されます；「**経済・社会・環境の分野の持続可能な開発を促進するような、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックからの、持続可能でレジリエント（回復力のある）な復興：持続可能な開発の実現と行動の 10 年の文脈における、2030 年アジェンダ達成のための包括的で効果的な道筋の構築**」。2021 年の HLPF は、持続可能な開発目標 1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」、3「すべての人に健康と福祉を」、8「働きがいも経済成長も」、10「人や国の不平等をなくそう」、12「つくる責任つかう責任」、13「気候変動に具体的な対策を」、16「平和と公平をすべての人に」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」について検討します。

43 カ国（ナミュール・ノートルダム修道会の支所がある日本とジンバブエを含む）は、自分たちの取り組みを自発的な国家レビュー（National Voluntary Report: VNR）として示していくでしょう。フォーラムの一部として、VNR は毎年加盟国に、それぞれの経験や成功、課題、SDGs の実践から得た教訓を共有する機会を与えます。市民社会団体、そして民間セクターや学界等その他の利害関係者も HLPF に参加します。2019 年 9 月の国連総会では、2020 年～ 2030 年までを開発目標達成のための「行動の 10 年」であると宣言しました。「行動の 10 年」は、「貧困やジェンダーから気候変動、不平等、資金不足にいたるまで、世界の最重要課題すべてについて、持続可能な解決策を加速的に講じることを求めています。

ノートルダムナミュール・ノートルダム修道会は、EST（東部標準時間）7 月 14 日午前 7 時 30 分からの「超アクティビズム（extractivism）が SDGs と COVID-19 からの復興に与える影響」というイベントの共同スポンサーになります。14 日のイベントにアクセスするには、次のリンクをクリックしてください <https://bit.ly/3wiqPm8>

より詳しく：

持続可能な開発に関するハイレベルフォーラム 2021；<https://bit.ly/3j9hH0m>

7 月 5 日～ 16 日までの HLPF は国連 WEBTV から；<https://bit.ly/3debZpZ>



児童労働反対世界デー 2021

投稿 2021 年 7 月 19 日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ

6 月 12 日は、児童労働反対世界デーです。この世界デーは、国際労働機関（ILO）の最悪の形態の児童労働条約の第 182 条が世界で批准されて初の世界デーでもありました。去る 6 月 10 日、国連児童基金（UNICEF）と国際労働機関（ILO）は、「児童労働：2020 年の世界推計、動向、前途」と題した共同レポートを公開しました。レポートで指摘されていることは、児童労働に従事している子どもの数が 1 億 6,000



万人に上り（過去 4 年で 840 万人増加）、COVID-19 の影響によってさらに数百万の子どもが児童労働に陥る危険にさらされているということです。また国連は、2021 年を児童労働撤廃国際年としています。

児童労働とは何でしょうか？子どもによってなされる全ての仕事が児童労働と見なされるわけではありません。国際労働機関は、児童労働を「子どもたちから、その childhood や潜在能力、尊厳を奪い、また子供たちの身体的・精神的発達を阻害するような労働」と定義しています。

以下の情報は、世界の児童労働の現状に関する児童労働撤廃国際年のウェブサイトからの抜粋です。

児童労働とはどのようなものなのでしょうか？世界的には、5 歳から 17 歳までの 1 億 5,200 万（UNICEF と ILO の最新レポートによると、1 億 6,000 万に増加しました）の子どもが児童労働に従事しています。約半数（7,250 万）の子どもが、彼らの健康や安全性、道徳的発達に危険性のある危険な業務にあたっています。

- アフリカ地域の子どもの 5 人に 1 人が児童労働に従事しており、児童労働の危険が最も高い地域となっています。
- 児童労働の影響を受けた子どもの半数が、低所得あるいは高中所得の国々に住んでいます。
- 紛争や災害を経験している国々では、問題はさらに蔓延しています。
- 児童労働に従事する子どもの 70% は農業分野で働き、主には、自給や商業的農業、家畜の世話をしています。
- 児童労働に従事する子どもの 3 分の 1 は、完全に教育システムから排除され、学校へ行っている子どもも成績が振るいません。

私たちはどうすれば児童労働を終わらせることができるのでしょうか？正しい政策アプローチと実務対応をもって、終わりは見えてきます。私たちが行う必要のあることは次のとおりです：

- 児童労働を終わらせる法的責任を促進する
- 大人と合法的な労働年齢の若者に対して、はたらきがいのある仕事を促進する
- 低所得家庭を助けるために、複層から成る社会保護システムを構築し、拡大する
- 児童労働の合理的な代替手段として無償で質の高い公教育へのアクセスを拡大すること
- サプライチェーンにおける児童労働に対処する
- 脆弱かつ危機的な状況にある子どもたちを保護する

より詳しく：児童労働に関する UNICEF レポート 2021；<https://bit.ly/2SwggOx>

持続可能な開発：COVID-19 パンデミック後のより良い復興

投稿 2021 年 8 月 16 日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ



HIGH-LEVEL POLITICAL FORUM ON SUSTAINABLE DEVELOPMENT

「より良い復興」は、コロナウイルスのパンデミックの危機以降、多くの国際連合（国連）機関、国際、地域そして国家の談話において、非常に一般的に使われています。しかし、より良い復興とはどのようなものなのでしょうか？また、社会の周縁にしばしば取り残される人々のニーズへの感受性を保ちながら、いかに実現できるのでしょうか？これらと同様のグループの人々——いくつか例を挙げると、女性や、子ども、マイノリティーのグループ、若者、障がい者は、パンデミックの矢面に立ったというわけです。

貧困率と飢餓の増加、学校に通う子どもの数の減少、雇用の検証、債務負担の増加、不平等の拡大、人権侵害の増加は、先に締結したハイレベル政治フォーラム 2021（HLPF）において多くの参加者に強調された、COVID-19 の社会的経済的影響です。HLPF2021 は、「経済・社会・環境の分野の持続可能な開発を促進するような、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックからの、持続可能でレジリエントな復興：持続可能な開発の実現と行動の 10 年の文脈における、2030 年アジェンダ達成のための包括的で効果的な道筋の構築」というテーマに焦点を合わせました。多くの人々に認められているように、COVID-19 パンデミックは、世界の国々で国内、国家間における社会経済的格差を露わにしました。

HLPF2021 の複数のステイクホルダーによって提案された、「より良い復興」のいくつかの解決法が焦点を当てたことは、社会保護システムや持続可能な農業、新たな債務救済の創設、建築への融資、そして市民社会やプライベートセクター、政府、国際コミュニティ等とのより強固なパートナーシップでした。HLPF2021 の最後に、閣僚宣言では、持続可能な開発目標を長きにわたり可能にし、強化し、刺激し、そして前進させるような COVID-19 からのレジリエントな回復の必要性が強調されました。より良く回復するためには、すべての人の人権を尊重しながら、政府が社会の一人一人のニーズを考慮しなければなりません。誰一人取り残されてはなりません。

より詳しく：

閣僚宣言：<https://bit.ly/3CxMvix>



地域連携・SDGs推進センター実績報告書〔2021(令和3)年度〕

2022年6月発行

編集・発行 ノートルダム清心女子大学 地域連携・SDGs推進センター
〒700-8516 岡山県岡山市北区伊福町二丁目16番9号
TEL 086-252-7054
FAX 086-252-7044

印刷 有限会社 ダイニ印刷
〒700-0961 岡山県岡山市北区北長瀬本町13番26号
